

Oracle® iPlanet Web Proxy Server

リリースノート

リリース 4.0.18

E24381-02

2011 年 12 月

Oracle iPlanet Web Proxy Server リリースノート, リリース 4.0.18

E24381-02

Copyright © 2001, 2011, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

Primary Author: Srinivas Sudhindra

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性 (redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle は、オラクル社またはその関連会社、あるいはその両方の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

このソフトウェアおよびドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

はじめに	ix
対象読者	ix
ドキュメントのアクセシビリティ	ix
表記規則	x
1 Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.18 リリースノート	
1.1 4.0.18 の諸機能および拡張機能	1-1
1.2 4.0.18 で修正された問題	1-1
1.3 4.0.18 の製品パッチ	1-3
1.4 ハードウェアとソフトウェアの要件	1-4
1.4.1 サポートされるプラットフォーム	1-4
1.4.2 システム仮想化のサポート	1-4
1.4.3 スワップ容量	1-4
1.4.4 オペレーティングシステムのパッチ	1-5
1.4.4.1 Solaris のパッチ	1-5
1.4.4.2 Linux のパッチ	1-5
1.4.5 サポートするブラウザ	1-5
1.4.6 非推奨に関する注意点	1-5
1.5 サポートされているソフトウェア、テクノロジー、およびプロトコル	1-6
1.5.1 透過プロキシ	1-6
1.5.2 URL マッピング	1-6
1.5.3 サーバーパラメータの監視	1-6
1.5.4 組み込み DNS の解決	1-7
1.5.5 ACL キャッシュの調整	1-7
1.5.6 キャッシュの PURGE 機能	1-8
1.5.7 IPv6 (Internet Protocol Version 6) のサポート	1-8
1.5.8 NSS および NSPR のサポート	1-8
1.5.9 変更された FTP 転送モード	1-8
1.5.10 アップグレードのサポート	1-8
1.5.11 ディスク容量とメモリー	1-9
1.5.12 強化されたハードウェアアクセラレータ暗号化のサポート	1-9
1.5.13 2007 年の U.S. DST の変更の影響	1-9

2 既知の問題点

2.1	Proxy Server 4.0 の管理の問題.....	2-1
2.2	Proxy Server 4.0 のキャッシュの問題.....	2-2
2.3	Proxy Server 4.0 のインストールの問題.....	2-3
2.4	Proxy Server 4.0 の国際化の問題.....	2-4
2.5	Proxy Server 4.0 のローカリゼーションの問題.....	2-5
2.6	Proxy Server 4.0 の SOCKS の問題.....	2-5

3 製品マニュアル

3.1	ドキュメントセット.....	3-1
3.2	4.0.14 のマニュアルに対する修正と更新.....	3-2
3.2.1	検証マトリックス内の JRE 情報についての記述の明確化.....	3-3
3.2.2	最大キャッシュ容量の増加.....	3-3
3.2.3	flex-init 関数の %Req->vars.xfer-time% オプション.....	3-3
3.2.4	flex-log SAF の clf-request-leading-whitespace パラメータ.....	3-3
3.2.5	um-define-junction SAF の新しいパラメータ.....	3-4
3.2.6	%duration% ログオプションで使用される時間単位についての記述の明確化.....	3-4
3.2.7	新しいディレクトリサービスの明示的な選択が必要なことについての記述の明確化...	3-4
3.2.8	admin.conf ファイルに関する情報.....	3-5
3.2.9	<Client> タグの日付と時刻のパラメータ.....	3-5
3.2.10	http-client-config SAF の forward-unread-request-body パラメータ.....	3-5
3.2.11	obj.conf ファイルの <Include> タグ.....	3-6
3.2.12	dns-config SAF の lookup-ipv6-first パラメータ.....	3-6
3.2.13	NameTrans ディレクティブの regexp-redirect 関数.....	3-6
3.2.14	send-error SAF の status-code および status-desc パラメータ.....	3-7
3.2.15	magnus.conf ファイルの新しいディレクティブ.....	3-7
3.2.16	http-client-config SAF のパラメータ.....	3-9
3.2.17	アクセスログファイル内のキャッシュ完了ステータスの説明.....	3-9
3.2.18	LS 要素で maxrequestspersconnection パラメータがサポートされる.....	3-10
3.2.19	virt-map SAF の説明.....	3-10
3.2.20	ACL 構成での IP アドレスの指定.....	3-10
3.2.21	PAC ファイルの手動生成.....	3-10
3.2.22	キャッシュのパーティションサイズについて.....	3-11
3.2.23	Proxy Server のインメモリーファイルキャッシュについて.....	3-11
3.2.24	プロキシアレイの使用.....	3-11
3.3	マニュアル、サポート、およびトレーニング.....	3-12
A.1	4.0.17 の諸機能および拡張機能.....	A-1
A.2	4.0.16 の諸機能および拡張機能.....	A-1
A.3	4.0.15 の諸機能および拡張機能.....	A-1
A.4	4.0.14 の諸機能および拡張機能.....	A-2
B.1	4.0.17 で修正された問題.....	B-1
B.2	4.0.16 で修正された問題.....	B-3
B.3	4.0.15 で修正された問題.....	B-5
B.4	4.0.14 で修正された問題.....	B-6
B.5	4.0.13 で修正された問題.....	B-9
B.6	4.0.12 で修正された問題.....	B-10
B.7	4.0.11 で修正された問題.....	B-10

B.8	4.0.10 で修正された問題	B-11
B.9	4.0.9 で修正された問題	B-12
B.10	4.0.8 で修正された問題	B-14
B.11	4.0.7 で修正された問題	B-14
B.12	4.0.6 で修正された問題	B-16
B.13	4.0.5 で修正された問題	B-18
B.14	4.0.4 で修正された問題	B-20
B.15	4.0.3 で修正された問題	B-24
B.16	4.0.2 で修正された問題	B-27
B.17	4.0.1 で修正された問題	B-28

表目次

1-1	Oracle Proxy Server 4.0.18 で修正された問題	1-1
2-1	管理における既知の問題	2-1
2-2	キャッシュにおける既知の問題	2-3
2-3	インストールにおける既知の問題	2-3
2-4	国際化における既知の問題	2-4
2-5	ローカリゼーションにおける既知の問題	2-5
2-6	SOCKS における既知の問題	2-5
3-1	Proxy Server 4.0.14 のドキュメントセット	3-1
3-2	um-define-junction SAF の新しいパラメータ	3-4
3-3	magnus.conf ディレクティブ	3-7
3-4	http-client-config SAF の新しいパラメータ	3-9
3-5	キャッシュ完了ステータス	3-9
B-1	Oracle Proxy Server 4.0.17 で修正された問題	B-2
B-2	iPlanet Web Proxy Server 4.0.16 で修正された問題	B-3
B-3	Proxy Server 4.0.15 で修正された問題	B-5
B-4	Proxy Server 4.0.14 で修正された問題	B-6
B-5	Proxy Server 4.0.13 で修正された問題	B-9
B-6	Proxy Server 4.0.12 で修正された問題	B-10
B-7	Proxy Server 4.0.11 で修正された問題	B-10
B-8	Proxy Server 4.0.10 で修正された問題	B-12
B-9	Proxy Server 4.0.9 で修正された問題	B-13
B-10	Proxy Server 4.0.8 で修正された問題	B-14
B-11	Proxy Server 4.0.7 で修正された問題	B-15
B-12	Proxy Server 4.0.6 で修正された問題	B-16
B-13	Proxy Server 4.0.5 で修正された問題	B-18
B-14	Proxy Server 4.0.4 で修正された問題	B-20
B-15	Proxy Server 4.0.3 で修正された問題	B-24
B-16	Proxy Server 4.0.2 で修正された問題	B-27
B-17	Proxy Server 4.0.1 で修正された問題	B-28

はじめに

Oracle iPlanet Web Proxy Server (このドキュメントでは Proxy Server と呼ばれます) は、ハイパフォーマンスのインターネットおよびイントラネット環境のための HTTP キャッシュおよび高速化基盤です。Proxy Server は、Web コンテンツをキャッシュおよびフィルタリングし、ネットワークパフォーマンスを高め、ネットワークインフラストラクチャー全体の統合、クロスプラットフォームサポート、および集中管理機能を提供するためのシステムです。

このドキュメントの情報は、次のように構成されています。

- **第 1 章「Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.18 リリースノート」** では、Proxy Server 4.0.17 の機能、拡張機能、および解決された問題、ハードウェアとソフトウェアの要件、さらにインストール、移行、およびアップグレードの注記に関する情報を記載しています。
- **第 2 章「既知の問題点」** では、Proxy Server 4.0.17 がリリースされた時点での重要な既知の問題および制限を一覧表示します。
- **第 3 章「製品マニュアル」** では、Proxy Server ドキュメントの概要を記載しています。また、ドキュメントの修正、拡張機能、および解決された問題について説明します。さらに、ドキュメント、サポート、およびトレーニングリソースの利用方法に関する情報も記載しています。
- **付録 A「Proxy Server 4.0 の以前のリリースでの諸機能および拡張機能」** では、以前にリリースされた製品の諸機能および拡張機能について説明します。
- **付録 B「Proxy Server 4.0 の以前のリリースで解決済みの問題」** では、以前にリリースされた製品で解決された問題を一覧表示します。

対象読者

このマニュアルの対象読者は、本稼働環境のサーバーを管理する Web Server 管理者です。このマニュアルでは、次の分野の知識があることを前提としています。

- ソフトウェアのインストール
- Web ブラウザの使用
- 基本システムの管理タスクの実行
- 端末ウィンドウでのコマンドの発行

ドキュメントのアクセシビリティ

アクセシビリティに対する Oracle のコミットメントについては、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc> の Oracle アクセシビリティプログラム Web サイトにアクセスしてください。

Oracle Support の利用

Oracle の顧客は、My Oracle Support によって電子的なサポートを利用できます。詳細については、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> にアクセスしてください。または、耳が不自由な場合は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> にアクセスしてください。

表記規則

このドキュメントでは、次のテキスト表記規則を使用します。

表記規則	意味
太字体	太字体は、操作に関連付けられたグラフィカルユーザーインターフェース要素か、テキストまたは用語集で定義された用語を示します。
斜体	斜体は、特定の値を指定するプレースホルダ変数を示します。
モノスペース体	モノスペース体は、段落内のコマンド、URL、サンプル内のコード、画面に表示されるテキスト、または入力するテキストを示します。

Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.18 リリースノート

この章では、Oracle iPlanet Web Proxy Server の 4.0.18 リリースの諸機能、拡張機能、および解決された問題に関する情報を記載しています。Oracle iPlanet Web Proxy Server のインストールおよび構成の前にこのリリースノートを読み、その後も定期的に最新の情報を参照してください。またこの章には、最新リリースでサポートされているプラットフォーム、ソフトウェア、テクノロジー、およびプロトコルに関する情報も記載されています。

この章の内容は次のとおりです。

- [4.0.18 の諸機能および拡張機能](#)
- [4.0.18 で修正された問題](#)
- [4.0.18 の製品パッチ](#)
- [ハードウェアとソフトウェアの要件](#)
- [サポートされているソフトウェア、テクノロジー、およびプロトコル](#)

1.1 4.0.18 の諸機能および拡張機能

Oracle iPlanet Web Proxy Server の 4.0.18 リリースでは、第 1.2 部「[4.0.18 で修正された問題](#)」に一覧表示されているバグの修正以外にも、次の機能強化が提供されています。

- `server.xml` ファイルの LS 要素で、`maxrequestspersconnection` という名前の新しいパラメータが導入されています。

以前の Proxy Server リリースで提供される新機能および拡張機能の詳細については、[付録 A 「Proxy Server 4.0 の以前のリリースでの諸機能および拡張機能」](#)を参照してください。

1.2 4.0.18 で修正された問題

[表 1-1](#) では、Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.18 で解決された問題を一覧表示します。ドキュメントの問題については、表の「概要」列に「Doc:」という接頭辞が付いています。

表 1-1 Oracle Proxy Server 4.0.18 で修正された問題

問題 ID	概要
12309210	SOCKS 接続で長い指令行を処理しているときにエラーが発生します。
12397203	Proxy 4.0 が ACL 構成で IPV6 アドレスをサポートしません。

表 1-1 (続き) Oracle Proxy Server 4.0.18 で修正された問題

問題 ID	概要
12580207	IPV6: HTTP3127: [LS LS1] HTTP://[FE80::20C:29FF:FE2C:8ADB]:8080: 作成時のエラー
12589688	Web Proxy 4.0.x で、flex-init の NO-FORMAT-STR.ACCESS が無効です。
12605750	Proxy NSFC で常に「Maxage: 0 Seconds」と表示されます。
12630518	Windows: 「Add Server」 ページが表示されないことがあります。
12639709	Doc: プロキシアレイの設定に関するドキュメントの RFE。詳細については、 第 3.2.24 節「プロキシアレイの使用」 を参照してください。
12676751	Doc: ファイルキャッシュの詳細を追加します。詳細については、 第 3.2.23 節「Proxy Server のインメモリーファイルキャッシュについて」 を参照してください。
12700707	より新しいバージョンの NSS にアップグレードします。
12700817	Doc: パーティション属性の maxsize の説明が実際のキャッシングの動作と一致していません。詳細については、 第 3.2.22 節「キャッシングのパーティションサイズについて」 を参照してください。
12713910	4.0.18 でのバージョン変更。
12726248	管理: プロキシアレイ: 「Redirect」 オプションが実装されていません。
12726319	管理: ICP: 「Redirect」 オプションが実装されていません。
12733725	Web Proxy Server がインスタンスの停止後にログファイルに停止メッセージログを記録するべきです。
12748873	Doc: PAC ファイルの生成後に Web Proxy Server を再起動する必要はありません。詳細については、 第 3.2.21 節「PAC ファイルの手動生成」 を参照してください。
12753559	起動コマンドで「parsexml」が呼び出される前に、LD_LIBRARY_PATH が正しく設定されていないことがあります。
12754044	管理: 待機ソケットの編集: 待機ソケットがインストール済み証明書に関連付けられていません。
12755285	管理: 待機ソケットの追加: 待機ソケットがインストール済み証明書に関連付けられていません。
12772070	管理: 「Set cach specifics」画面が混乱を招く可能性があります。
12772085	Service-Nfsc-dump が、小さいファイル内容を格納するために使用されるメモリーを表示するべきです。
12803279	インストーラが「-」を管理ユーザー名として許可しません。
12812190	Web Proxy Server が SOCKS サーバーの停止後にログファイルに停止メッセージログを記録するべきです。
12861774	GC スリープ間隔用の新しいパラメータを追加します。
12862155	GC_Log で Proxy がクラッシュします。
12862365	Proxy Server 4.0.18 で「/.Cache-data/.status」ファイルを開けません。
12867732	条件によっては GC が実行されないことがあります。

表 1-1 (続き) Oracle Proxy Server 4.0.18 で修正された問題

問題 ID	概要
12870255	管理 GUI が、ACL ファイルの IP アドレスリストの有効な入力として「+」を受け入れません。
12870420	Doc: Proxy Serve 4.0 ACL ファイルでサブネットマスク表記を使用する構文をドキュメント化します。詳細については、第 3.2.20 節「ACL 構成での IP アドレスの指定」を参照してください。
12929743	Proxy 4.0.15 起動時の Windows イベントエラー。
12931809	Doc: Oracle iPlanet Proxy Serve の virt-map SAF の説明がありません。詳細については、第 3.2.19 節「virt-map SAF の説明」を参照してください。
12931829	Oracle iPlanet Proxy Server の仮想多重ホスティングのオプション「From-Prefix」がありません。
12932343	管理 GUI の ACL 構成画面で IPV4 アドレス検証が必要です。
12951802	Doc: 新しく組み込まれた CA ルート 4.0.16 で発生する CR: 6932016-Verisign EV 証明書チェーンの問題を修正します。詳細については、第 2.3 節「Proxy Server 4.0 のインストールの問題」を参照してください
12990952	管理 GUI のオンラインヘルプを変更する必要があります (バグ # 12327750)。
12990962	管理 GUI のオンラインヘルプを変更する必要があります (バグ # 12931829)。
13004785	管理 GUI の ACL 構成画面で IPV6 アドレス検証が必要です。
13013946	Web Proxy が JS コメントの前にあるスラッシュを削除します。
13014098	HTML タグのコンテンツ URL 書き換えは HTML エンコーディングされるべきです。
13022670	Doc: 最小必要メモリと最小推奨ディスク容量をリリースノートに追加するよう要求します。詳細については、第 1.5.11 節「ディスク容量とメモリ」を参照してください。
13261035	Doc: Server.xml ファイル内の <LS> 要素の新しい属性をドキュメント化します (バグ #13087905)。詳細については、第 3.2.18 節「LS 要素で maxrequestsperconnection パラメータがサポートされる」を参照してください。

以前の Proxy Server リリースで解決された問題の詳細については、付録 B「Proxy Server 4.0 の以前のリリースで解決済みの問題」を参照してください。

1.3 4.0.18 の製品パッチ

次の表は、My Oracle Support (<http://support.oracle.com>) で Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.18 について利用可能なパッチを一覧したものです。

プラットフォーム	パッチ ID
Linux x86	145605-04
Solaris SPARC (32 ビット)	145604-04
Solaris x86 (32 ビット)	145606-04

プラットフォーム	パッチ ID
Windows (32 ビット)	145607-04

1.4 ハードウェアとソフトウェアの要件

ここでは、Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.18 のハードウェアとソフトウェアの要件に関する情報を提供します。

この節では、次の内容について説明します。

- サポートされるプラットフォーム
- システム仮想化のサポート
- スワップ容量
- オペレーティングシステムのパッチ
- サポートするブラウザ
- 非推奨に関する注意点

1.4.1 サポートされるプラットフォーム

Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.18 でサポートされるオペレーティング環境およびハードウェアについての詳しい情報は、次の場所にある『Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.14+ Certification Matrix』に記載されています。

<http://www.oracle.com/technetwork/middleware/ias/downloads/fusion-certification-100350.html>

1.4.2 システム仮想化のサポート

システム仮想化とは、複数のオペレーティングシステム (OS) インスタンスが共有ハードウェア上で独立して動作することを可能にするテクノロジーのことです。機能的には、仮想化環境内でホストされている OS に配備されたソフトウェアは通常、背後のプラットフォームが仮想化されていることに気づきません。Oracle では、適切に設定された適切なサイズの仮想化環境上で、仮想化されていないシステム上の場合と同様に製品が機能することを確認できるよう、選択したシステム仮想化と OS の組み合わせについて Oracle 製品のテストを実行しています。

仮想化環境での Oracle 製品のサポートについては、次のドキュメントを参照してください。

<http://www.oracle.com/technetwork/middleware/ias/oracleas-supported-virtualization-089265.html>

1.4.3 スワップ容量

『Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.14+ Certification Matrix』で指定される要件に加え、システムでは次の適切なスワップ容量が必要です。

- Solaris では、少なくともシステムの RAM 容量と同じスワップ容量が必要です (RAM 容量の 2 倍を推奨)
- Linux では 256 M バイトのスワップ容量が必要です

1.4.4 オペレーティングシステムのパッチ

適用可能な最新のパッチを使用して、オペレーティングシステムをアップデートすることをお勧めします。必要なパッチをプラットフォーム別に示します。

1.4.4.1 Solaris のパッチ

Solaris SPARC および x86 では、Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.18 に次のパッチレベルが必要です。

- Solaris 8 (SPARC): 108434-18 (C++ 用の共有ライブラリパッチ)
- Solaris 9 (SPARC): 111711-12 (C++ 用の共有ライブラリパッチ)
- Solaris 9 (x86): 111713-12 (C++ 用の共有ライブラリパッチ)
- Solaris 10 (SPARC): 必要ありません
- Solaris 10 (x86): 119964-03 (C++ 用の共有ライブラリパッチ)

1.4.4.2 Linux のパッチ

Linux では、Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.18 に次のパッチレベルが必要です。

- Red Hat Enterprise Linux Advanced Server 3: compat-libstdc++-7.3-2.96.128.rpm
- Red Hat Enterprise Linux Advanced Server 4: compat-libstdc++-33-3.2.3-47.3.rpm
compat-libstdc++-296-2.96-132.7.2.rpm

1.4.5 サポートするブラウザ

Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.18 でサポートされる Web ブラウザについての詳しい情報は、次の場所にある『Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.14+ Certification Matrix』に記載されています。

<http://www.oracle.com/technetwork/middleware/ias/downloads/fusion-certification-100350.html>

1.4.6 非推奨に関する注意点

オペレーティングシステムのバージョン。 Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.16 のリリース時点では、次のオペレーティングシステムのバージョンは非推奨で、Proxy Server の将来のリリースではサポートされなくなります。

HP-UX 11.11

Microsoft Windows 2000 Server および Windows 2000 Advanced Server

Red Hat Enterprise Linux Advanced Server 3

Solaris 8

Solaris 9 for SPARC および x86

Web ブラウザのバージョン。 Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.16 のリリース時点では、次の Web ブラウザのバージョンは非推奨で、Proxy Server の将来のリリースではサポートされなくなります。

Microsoft Internet Explorer 6

Mozilla 1.4.1 および 1.7.2

Netscape Navigator 7.1 および 7.2

1.5 サポートされているソフトウェア、テクノロジー、およびプロトコル

Proxy Server の最新リリースには、次のサブセクションで説明されている機能強化が含まれています。

1.5.1 透過プロキシ

Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0 は、HTTP/1.1 接続の透過プロキシをサポートします。透過プロキシでは、クライアントの情報を取得したりクライアントを管理したりすることなしに、プロキシサーバーを使って Web 要求をインターセプトして処理します。たとえば、プロキシサーバーがアクティブになっているローカルポートに受信された TCP 接続をリダイレクトするように、ローカルネットワーク用のルーターを設定したりします。

obj.conf ファイルに含まれるプロキシサーバーの default オブジェクトに、次の指令を追加します。

```
NameTrans fn="host-map"
```

この設定を行うと、プロキシサーバーは、受信した要求の HTTP Host: ヘッダーを使って、ターゲットリモートサーバーの識別とそのサーバーへの要求のリダイレクトを行います。

注： HTTP Host: ヘッダーに基づいて接続を判断する透過プロキシサーバーは、アクティブなコンテンツを通じて偽造された擬似的な HTTP Host: ヘッダーによる攻撃を受けやすくなります。したがって、悪意のあるコンテンツをホストしている可能性のある Web サイトへの接続を回避できるように、適切な ACL 設定を実装する必要があります。

1.5.2 URL マッピング

URL マッピングが Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.8 で実装されており、これによって Proxy Server を逆プロキシとして動作させることができます。この機能によって、Proxy Server はバックエンドアプリケーションサーバー用の 1 つのフロントエンドホスト名として表示されます。要求元の URI に基づいて、バックエンドサーバーにアクセスできます。

URL マッピングについては、『Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.14 Configuration File Reference』の「Reverse Proxy Scenario」を参照してください。

URL マッピングで使用される Server Application Functions (SAF) については、『Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.14 Configuration File Reference』の「Server Application Functions (SAFs)」を参照してください。

1.5.3 サーバーパラメータの監視

Proxy Server の監視機能では、インスタンスレベルで監視可能なサーバーパラメータの詳細なリストが提供されます。

Proxy Administration Server では、次の操作を実行できます。

- インスタンスレベルでのサーバー統計情報の表示
- インスタンスレベルでのパラメータの有効化または無効化

サーバーを監視するには、次のように実行してください。

1. 管理サーバーへアクセスします。

2. 「Manage Servers」 ページで 「Instance」 リンクをクリックします。
3. 「Server Status」 タブをクリックします。
4. 「Monitor Current Activity」 タブをクリックします。
5. サーバーの監視を行うには、「Monitor Current Activity」 を Yes に設定します。
5 秒、10 秒、15 秒の間隔でサーバーを更新して、DNS、Keep-Alive、Cache、Server Requests、および Work Thread 接続の統計情報を表示することもできます。

1.5.4 組み込み DNS の解決

組み込み DNS では、デフォルト以外の名前解決をサポートしています。DNS クライアントが DNS サーバーと対話して名前解決を行います。新しい SAF dns-lookup では、DNS サーバーの IP アドレスをサーバーの引数として受信します。この IP アドレスは obj.conf ファイルに DNS ディレクティブとして追加するようにしてください。

次の例では、サーバーパラメータ内で DNS サーバーの IP アドレスが指定されています。

```
<object>
....
DNS fn="dns-lookup" server="170.168.10.3"
...
</object>
```

次の例では、複数の DNS サーバーの IP を dns-lookup-init に追加できます。これはラウンドロビンモデルで使用されます。このシナリオでは、DNS サーバーの IP アドレスを dns-lookup に追加しないでください。DNS サーバーのパラメータが dns-lookup と dns-lookup-init の両方に追加された場合は、dns-lookup の引数が優先されます。

```
...
<Object>
...
DNS fn="dns-lookup"
....
Init fn="dns-lookup-init" servers="170.168.10.3, 170.158.10.4"
</Object>
```

1.5.5 ACL キャッシュの調整

ACLCacheMax は、ACL キャッシュ内に保存される ACL の総数の制限を設定する magnus.conf パラメータです。ACLCacheMax にはデフォルト値が存在しません。特定の制限値を設定するようにしてください。

たとえば、ACLCacheMax 16384 のように設定します。

注： ここで説明している ACL キャッシュは ACL ユーザーキャッシュのことではありません。パフォーマンス上の理由でキャッシュされる特定の URL に ACL が対応している場合のキャッシュを指しています。

GCAStartup は magnus.conf パラメータで、ブール値を使用できます。デフォルト値は false です。true に設定した場合、サーバーの起動時にキャッシュガベージコレクタがガベージをクリアします。キャッシュのサイズが大きい場合は、この処理によってサーバーの起動時間が長くなります。

1.5.6 キャッシュの PURGE 機能

Oracle iPlanet Web Proxy Server では PURGE 要求によって、キャッシュされた URL をクリアすることができます。要求された URL が正常に削除されると、サーバーから HTTP ステータスコード 200 (OK) を含む応答が送信されます。指定した URL がキャッシュされていない場合は、404 (Not Found) の応答が送信されます。

次の例では、サーバーは値 200 を返信しています。

```
bash-2.03$ telnet localhost 8088
Trying 172.9.10.1...
Connected to localhost.
Escape character is '^]'.
PURGE http://foo.com/ HTTP/1.0

HTTP/1.1 200 OK
Server: Oracle-iPlanet-Proxy-Server/4.0
Date: Fri, 26 Oct 2007 08:15:30 GMT
Connection: close
```

次の例では、サーバーは値 404 を返信しています。

```
Connection closed by foreign host.
bash-2.03$ telnet localhost 8088
Trying 172.9.10.1...
Connected to localhost.
Escape character is '^]'.
PURGE http://foo.com/ HTTP/1.0

HTTP/1.1 404 Not Found
Server: Oracle-iPlanet-Proxy-Server/4.0
Date: Mon, 17 Sep 2007 10:13:28 GMT
Content-length: 96
Content-type: text/html
Connection: close
```

1.5.7 IPv6 (Internet Protocol Version 6) のサポート

Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.11 を経由して IPv6 対応の Web サイトに接続できます。Proxy Server は、デフォルト (受動) モードで IPv6 の ftp 拡張もサポートします。

1.5.8 NSS および NSPR のサポート

Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.18 は、NSS (Network Security Services) 3.13.1.0 および NSPR (Netscape Portable Runtime) 4.8.9 をサポートしています。

1.5.9 変更された FTP 転送モード

Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.6 リリースから、拡張アドレス受動ポート (EPSV) モードがサポートされるようになりました。

1.5.10 アップグレードのサポート

Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.2 リリースから、インストーラは、既存の Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0 インストールから新しいリリースへのアップグレードをサポートしています。Java Enterprise System の Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.1 をインストールしている場合は、新しいリリースに対応するパッチをインストールする必要があります。

1.5.11 ディスク容量とメモリー

Proxy Server インストール時の最小必要メモリーは、512M バイトです。Proxy Server インストール時の最小推奨ディスク容量は、550M バイトです。

1.5.12 強化されたハードウェアアクセラレータ暗号化のサポート

Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.12 は、Proxy Server 上の SSL のパフォーマンスを向上させる暗号化アクセラレータボードである、Sun Crypto Accelerator 6000 のハードウェアアクセラレータのサポートを提供しています。

1.5.13 2007 年の U.S. DST の変更の影響

米国では、3 月の第 2 日曜日にサマータイム (DST) が始まり、11 月の第 1 日曜日に終了します。これは、オペレーティングシステムの日付と時刻の規則に影響を与えます。

ログファイルに US タイムゾーンの正しい時刻が記録されており、管理サーバーがこの変更の影響を受けていないことを確認するには、次のようにしてください。

- 適切なオペレーティングシステムのパッチをダウンロードしてインストールします。
その他のプラットフォームの場合は、同様の DST 互換パッチを各オペレーティングシステムのベンダーの Web サイトからダウンロードしてください。
- Solaris、Windows、および Linux プラットフォームの場合は、JRE 1.5.0_12 を使用して Proxy Server を実行してください。HP-UX プラットフォームの場合は、JRE 1.5.0_12 を使用して Proxy Server を実行してください。

既知の問題点

この章では、Proxy Server 4.0.17 がリリースされた時点での重要な既知の問題および制限を一覧表示します。

既知の問題は、次のカテゴリに分類されます。

- [Proxy Server 4.0 の管理の問題](#)
- [Proxy Server 4.0 のキャッシュの問題](#)
- [Proxy Server 4.0 のインストールの問題](#)
- [Proxy Server 4.0 の国際化の問題](#)
- [Proxy Server 4.0 のローカリゼーションの問題](#)
- [Proxy Server 4.0 の SOCKS の問題](#)

2.1 Proxy Server 4.0 の管理の問題

表 2-1 は、管理ユーザーインタフェースに関連した既知の問題を一覧したものです。

表 2-1 管理における既知の問題

問題 ID	概要
6653507	「Monitor Current Activity Statistics/Profiling」が ON に設定されている場合、ユーザーのインタフェースからは OFF にできません。
6212701	サーバーインスタンスの起動に失敗すると、相反するエラーメッセージが表示されません。 管理インタフェースが間違っただけを構成ファイルに書き込む可能性は非常に低いので、この相反するエラーメッセージが表示されることはめったにありません。ユーザーが手動で間違っただけを構成ファイルに書き込んだ場合にのみ可能性があります。
6231297	SOCKS 設定に変更を加えて、SOCKS サーバーの代わりに Proxy Server を再起動した場合は、「Restart Required」リンクが消えます。
6484502	Proxy Server の管理インタフェースがローカライズされていません。

表 2-1 (続き) 管理における既知の問題

問題 ID	概要
6509535	<p>米国では、夏時間 (Daylight Savings Time、DST) が 3 月の第 2 日曜日に始まり、11 月の第 1 日曜日に終わります。これは、オペレーティングシステムと JRE の日付と時刻の規則に影響を与えます。</p> <p>Proxy Server のスタンドアロンバージョンでは、2007 年の DST の変更に対応する JRE バージョンがインストーラにバンドルされています。ただし、回避策の手順 1 の説明に従って適切なオペレーティングシステムのパッチをインストールすることにより、オペレーティングシステムの日付と時刻の規則への影響に対処する必要があります。</p> <p>Java ES 5 の Proxy Server のインストールでは、オペレーティングシステムのパッチとともに DST 互換バージョンの JRE もインストールする必要があります。回避策の手順 1 と手順 2 に従ってください。</p> <p>回避策</p> <ol style="list-style-type: none"> 適切なオペレーティングシステムのパッチをダウンロードして使用します。 その他のプラットフォームの場合は、同様の DST 互換パッチをオペレーティングシステムのベンダーの Web サイトからダウンロードしてください。 Solaris、Windows、および Linux プラットフォームの場合は、JRE 1.4.2_13 を使用して Proxy Server を実行してください。HP-UX プラットフォームの場合は、JRE 1.4.2.12 を使用して Proxy Server を実行してください。
6558027	Windows で複数バイト文字のサーバー識別子を使用すると、サーバー側で createInstance.exe のエラーが発生します。
6867774	カスタム JDK 設定を使用するプロキシのインストールを、より新しい JDK バージョンを要求するサービスパックのバージョンにアップグレードすると、管理サーバーが起動に失敗します。アップグレード後、バンドルされた JDK または要求されたバージョンのカスタム JDK のどちらかを指すように JDK 設定を手動で修正する必要があります。
6909558	LDAP UID でのバックスラッシュの使用は、特殊文字をエスケープする目的に限定すべきです。Proxy サーバーによって使用される ldap sdk は、バックスラッシュを削除してから UID をディレクトリサーバーに送信します。これにより、バックスラッシュを取り除いた UID に対する一致がディレクトリサーバーに見つからないために、成功するはずの認証が失敗する、またはバックスラッシュを取り除いた UID に対する一致がディレクトリサーバーに見つかるために、失敗するはずの認証が成功する、という状況が生じる可能性があります。
6888170	指定されたターゲットディレクトリ名の末尾にスラッシュが付いている場合、RHEL4 でアップグレードが失敗します。
12307267	<p>SSL (Security Sockets Layer) 設定で Proxy Server 3.6 から Proxy Server 4.0 への移行に失敗します。</p> <p>現在、Web Proxy 3.6 証明書を Web Proxy 4.0 インスタンスに移行することはできません。</p> <p>回避方法:</p> <ol style="list-style-type: none"> Proxy Server 3.6 インスタンスでセキュリティーオプションを無効にします。 Proxy Server 3.6 から 4.0 に移行します。 手順に従って、証明書署名要求を生成します。 Proxy Server 4.0 インスタンスでセキュリティーを有効にするために、証明書を作成してインストールします。

2.2 Proxy Server 4.0 のキャッシュの問題

表 2-2 は、キャッシュに関連した既知の問題を一覧したものです。

表 2-2 キャッシュにおける既知の問題

問題 ID	概要
6654514	要求タイプ 504 に対して、Proxy-Agent ヘッダーに元のヘッダーが表示されます。
6229823	<p>新しいパーティションを追加すると、パーティションのサイズに関係なく、デフォルトのセクション s0.0 も作成されます。エラーファイルに警告メッセージが記録されます。</p> <p>回避策</p> <p>cbuild ユーティリティーを使用して、新しいパーティションを追加するか、または新しいキャッシュパーティション下の s0.0 フォルダを削除し、Proxy Server を再起動します。</p> <p>エラーメッセージは無視して構いません。</p>
6619620	<p>Doc RFE: Proxy Server をネットワークキャッシュとアクセラレータ (NCA) と一緒に使用すべきではありません。</p> <p>Proxy Server 4.0.8 を NCA と一緒に使用すると、ユーザー ID とパスワードの入力をブラウザから繰り返し求められます。これが発生する理由は、NCA では、Proxy-authorization などの Proxy Server 固有のヘッダーがサポートされないためです。</p> <p>回避策</p> <p>Proxy の待機ソケット設定で NCA を選択しないでください。</p>

2.3 Proxy Server 4.0 のインストールの問題

表 2-3 は、インストールに関連した既知の問題を一覧したものです。

表 2-3 インストールにおける既知の問題

問題 ID	概要
6205683	Windows 上のコンソールインストールに失敗します。
6255325	root ユーザーでないユーザーが Proxy Server をインストールし、/var/opt/sun/install ディレクトリが存在しない場合、インストーラは例外をスローし、Linux でのインストールは失敗します。
6353576	サイレントアップグレードインストールが機能しません。
6587776	Windows XP 上で Java ES 5 から Proxy Server をインストールした場合、システムエラー 1067 が表示されます。
6756659	setup コマンドの --javahome オプションで JDK 1.6 の場所を指定した場合にのみ、GUI インストーラを使用して OpenSolaris 上に Proxy Server 4.0.9 をインストールできます。
6607551	<p>Windows 上で、パッチをアンインストールしても Proxy Server のリリースは以前のリリース番号に変更されません。</p> <p>Uninstaller スクリプトを使用してパッチを取り消しても RenameService.exe ユーティリティーに制限があるため、サービス記述名を以前の Proxy Server のリリースに変更できません。このため、パッチをアンインストールしたあとも、サービス記述には以前のリリース番号ではなく最新の Proxy Server リリースが表示されます。</p>

表 2-3 (続き) インストールにおける既知の問題

問題 ID	概要
12951802	<p>新しく組み込まれた CA ルート 4.0.16 で発生する CR:6932016-Verisign EV 証明書チェーンの問題を修正します</p> <p>回避策</p> <p>Verisign EV 2048 ビット SSL Web プロキシサーバー証明書を使用している場合、4.x.x より前のバージョンの Web プロキシから 4.x.x アップデート以降の Web プロキシにアップグレードしたあとで、古いブラウザの一部で「Certificate Authority Not Trusted」という警告が表示されることがあります。この問題を解決するには、次の手順に従います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Web プロキシサーバーを停止します。 2. <code>cd <proxy instance dir>/config</code> を実行します 3. Root Certs モジュールを表示するために、<code>modutil -list -nocertdb -dbdir</code> を実行します 4. 次を実行します:<code>modutil -dbdir . -delete 'Root Certs'</code> 5. 次を実行します:<code>modutil -list -nocertdb -dbdir</code> Root Certs モジュールが削除されます。 6. Web プロキシサーバーを起動します。 <p>上のプロセスを実行したあとで、より上のバージョンにアップグレードする場合、アップグレード後のバージョンでも必ず同じプロセスに従ってください。</p>

2.4 Proxy Server 4.0 の国際化の問題

表 2-4 は、国際化に関連した既知の問題を一覧したものです。

表 2-4 国際化における既知の問題

問題 ID	概要
6233080	ルーティングが別のプロキシサーバーを使って設定されている場合、「Disable Proxying」オプションはマルチバイトデータ (URL エンコード) の URL では機能しません。
6233090	マルチバイトデータ (URL エンコード) の URL をマップできません。
6253844	Proxy Server のオンラインヘルプは zh-cn (簡体字中国語) をサポートしていません。
6297168	<p>異なるシステムエンコーディングでサーバーを起動すると、そのシステムによってエラーが発生し、エラーログに記録されます。管理サーバーから表示すると、エラーログには正しく表示されないシステムエンコーディングの文字が含まれる場合があります。</p> <p>回避策</p> <p>エラーログが管理インタフェースで正しく表示できるように、ブラウザのエンコーディングを OS ロケールに合うように変更します。しかし、この手順は他のページに移動して「View Error Log」に戻るたびに必要となります。</p>
6300080	Proxy Server のコンテンツ書き換え関数が矛盾しています。

表 2-4 (続き) 国際化における既知の問題

問題 ID	概要
6526476 および 6526488	HP-UX での Proxy Server のスタンドアロンインストールでは、GUI モードでインストールを行うと日本語の文字が正しく表示されません (ID 番号 6526476)。そのままインストールを続行すると、インスタンスの作成中にエラーが発生します (ID 番号 6526488)。 回避策 次のいずれかの回避策を使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> HP-UX の日本語ロケールでは CLI モードのインストールを使用します。 文字が破壊されて表示されていても、インストールを続行します。インストーラがインスタンスの作成に失敗した場合は、管理インターフェースにログオンしてインスタンスを作成します。
6550995	次のエラーメッセージは、どのロケールに対してもローカライズされていません。 HTTP7774: received extraneous data following response

2.5 Proxy Server 4.0 のローカリゼーションの問題

表 2-5 は、ローカリゼーションに関連した既知の問題を一覧したものです。

表 2-5 ローカリゼーションにおける既知の問題

問題 ID	概要
6779070	Proxy Server オンラインヘルプの利用規約のリンクが壊れています。
6253844	Proxy Server オンラインヘルプの設定言語オプションは、zh-cn (簡体字中国語) をサポートしていません。
6828246	RHEL 5.2 の Proxy Server インストーラで、韓国語の文字が表示されません。

2.6 Proxy Server 4.0 の SOCKS の問題

表 2-6 は、SOCKS に関連した既知の問題を一覧したものです。

表 2-6 SOCKS における既知の問題

問題 ID	概要
6245453	更新抑制機能は GUI に表示され、「Server Manager」 > 「SOCKS」 > 「Configure SOCKS v5」 ページに説明がありますが、この機能は実装されていません。
6263389	Windows で同じポートを使用して SOCKS の 2 つのインスタンスを起動すると、エラーがレポートされません。
6285791	Java ES 4 の SOCKS サーバーの start コマンド行の問題はリリース 4.0.5 で修正されましたが、Java ES 4 インストーラで作成された既存のインスタンスでは、最新の 4.0.3 パッチにアップグレードしたあとも問題が残ります。アップグレード後に作成された新しいインスタンスにはこの問題はありません。この問題は、Proxy Server のスタンドアロンインストールでは発生しません。

製品マニュアル

Proxy Server 4.0 のマニュアルは、次のいくつかの方法で提供されます。

- マニュアル – Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0 のマニュアルおよびリリースノートは、HTML 形式および印刷可能な PDF 形式で参照できます。
- オンラインヘルプ – グラフィカルインタフェースの「ヘルプ」ボタンをクリックすると、関連した内容のヘルプウィンドウを検索できます。

Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.14 が、Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0 のドキュメントセットの全体が更新された最後のリリースとなります。4.0.14 リリースのあとで Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0 のマニュアルに加えられた更新と修正は、このリリースノートに記載されています。第 3.2 節「4.0.14 のマニュアルに対する修正と更新」を参照してください。

この章の内容は次のとおりです。

- [ドキュメントセット](#)
- [4.0.14 のマニュアルに対する修正と更新](#)
- [マニュアル、サポート、およびトレーニング](#)

3.1 ドキュメントセット

Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.14 のドキュメントは次の場所にあります。

<http://download.oracle.com/docs/cd/E19438-01/>

Oracle iPlanet Web Proxy Server への導入としては、表 3-1 に示されている順序でドキュメントを読んでください。

表 3-1 Proxy Server 4.0.14 のドキュメントセット

ドキュメントのタイトル	内容
Oracle® iPlanet Web Proxy Server リリースノート (このドキュメント)	Proxy Server リリースの要約 <ul style="list-style-type: none"> ■ ソフトウェアおよびマニュアルについての最新情報 ■ 新機能 ■ サポートされるプラットフォームおよび環境 ■ システム要件 ■ 既知の問題と回避策
Installation and Migration Guide	以下のインストールおよび移行作業の実行 <ul style="list-style-type: none"> ■ Proxy Server のインストール ■ リリース 3.6 からリリース 4.0 への移行

表 3-1 (続き) Proxy Server 4.0.14 のドキュメントセット

ドキュメントのタイトル	内容
Administration Guide	次の管理作業の実行 <ul style="list-style-type: none"> ■ 管理およびコマンド行インタフェースの使用 ■ サーバー環境の設定 ■ ユーザーとグループの管理 ■ サーバーアクティビティの監視およびログ ■ サーバー保護のための証明書および公開鍵暗号の使用 ■ サーバーアクセスの制御 ■ URL のプロキシ処理およびルーティング ■ キャッシュ ■ コンテンツのフィルタリング ■ 逆プロキシの使用 ■ SOCKS の使用
Configuration File Reference	設定ファイルの編集
NSAPI Developer's Guide	カスタム NSAPI (Netscape Server Application Programming Interface) プラグインの作成
Performance Tuning, Sizing, and Scaling Guide	パフォーマンスを最適化するための Proxy Server のチューニング

3.2 4.0.14 のマニュアルに対する修正と更新

次の節では、Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.14 のマニュアルに加えられた修正と更新について説明します。

- 検証マトリックス内の JRE 情報についての記述の明確化
- 最大キャッシュ容量の増加
- flex-init 関数の %Req->vars.xfer-time% オプション
- flex-log SAF の clf-request-leading-whitespace パラメータ
- um-define-junction SAF の新しいパラメータ
- %duration% ログオプションで使用される時間単位についての記述の明確化
- 新しいディレクトリサービスの明示的な選択が必要なことについての記述の明確化
- admin.conf ファイルに関する情報
- <Client> タグの日付と時刻のパラメータ
- http-client-config SAF の forward-unread-request-body パラメータ
- obj.conf ファイルの <Include> タグ
- dns-config SAF の lookup-ipv6-first パラメータ
- NameTrans ディレクティブの regexp-redirect 関数
- send-error SAF の status-code および status-desc パラメータ
- magnus.conf ファイルの新しいディレクティブ
- http-client-config SAF のパラメータ
- アクセスログファイル内のキャッシュ完了ステータスの説明

3.2.1 検証マトリックス内の JRE 情報についての記述の明確化

『Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.14+ 検証マトリックス』には現在 (2011 年 4 月時点)、検証された JRE バージョンとして 1.6.0_19 のみが示されています。

次の点に注意してください。

- Oracle iPlanet Web Server の 4.0.13 以前のリリースは JRE 5 で検証されています (また JRE 5 を含んでいます)。
- 4.0.14、4.0.15、および 4.0.16 は JRE 5 と JRE 6 の両方で検証されていますが、これらのリリースには JRE 5 のみが含まれています。
- 4.0.17+: JRE 6 のみで検証されています (また JRE 6 のみを含んでいます)。

3.2.2 最大キャッシュ容量の増加

「Setting Cache Capacity」節 (『Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.13 管理者ガイド』) では、キャッシュ容量は最大 32GB まで可能と記載されています。

4.0.10 リリースからは、管理インターフェースを使用して設定できる最大キャッシュ容量は 128GB です。

注: キャッシュ容量は、`server.xml` 設定ファイルを編集することによって、128GB より大きい任意の値 (上限なし) に手動で設定できます。ただし、手動での設定方法を選択してキャッシュ容量を 128GB 未満の値に設定する場合、許可される値は 125、250、500、1000、2000、4000、8000、16000、32000、64000、128000 です。

3.2.3 flex-init 関数の %Req->vars.xfer-time% オプション

「Log Format」節 (『Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.14 構成ファイルリファレンス』) の表 5-4 に、使用可能なフレキシブルロギングオプションが一覧されています。

%Req->vars.xfer-time% オプションがリストにありません。

%Req->vars.xfer-time% オプションを使用して転送時間を秒単位で記録できます。

3.2.4 flex-log SAF の clf-request-leading-whitespace パラメータ

Proxy Server 4.0.16 では、AddLog ディレクティブの flex-log SAF 用の新しいパラメータ `clf-request-leading-whitespace` がサポートされています。次の表に、この新しいパラメータに関する情報を示します。

パラメータ	説明
<code>clf-request-leading-whitespace</code>	(省略可能) 要求行の先行する改行を、サーバーアクセスログに出力する前に削除するかどうかを示すブール値。 デフォルト値は <code>yes</code> です。 例: AddLog fn="flex-log" name="access" clf-request-leading-whitespace="no"

flex-log SAF のほかのパラメータについては、「flex-log」節 (『Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.14 構成ファイルリファレンス』) を参照してください。

3.2.5 um-define-junction SAF の新しいパラメータ

表 3-2 には、4.0.14 リリース以降に Init ディレクティブの um-define-junction SAF に追加された新しいパラメータが一覧されています。これらのパラメータは、『Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.14 構成ファイルリファレンス』で説明されていません。

表 3-2 um-define-junction SAF の新しいパラメータ

パラメータ	追加されたリリース	説明
set-cookie-domain-from および set-cookie-domain-to	4.0.16	(省略可能) これらのパラメータは、バックエンドサーバーから受信する Set-cookie: ヘッダーの domain パラメータを書き換えるためのターゲットおよび宛先の値を指定するために使用できます。
rewrite-set-cookie-domain	4.0.16	(省略可能) このパラメータを true に設定すると、バックエンドサーバーから受信する Set-cookie: ヘッダーの domain パラメータが、プロキシサーバーのドメインに書き換えられます。 デフォルト値は false です。
insert-set-cookie-domain	4.0.16	(省略可能) このパラメータは、domain パラメータを、バックエンドサーバーから受信する Set-cookie: ヘッダーに挿入するために使用できます。
set-cookie-path-from および set-cookie-path-to	4.0.16	(省略可能) これらのパラメータは、バックエンドサーバーから受信する Set-cookie: ヘッダーの path パラメータを書き換えるためのターゲットおよび宛先の値を指定するために使用できます。
disable-javascript-rewrite	4.0.15	(省略可能) has-javascript パラメータが yes に設定されている場合に JavaScript 変数の名前に対してマッチングさせる正規表現。名前が正規表現にマッチした変数は書き換えられません (has-javascript が yes に設定されていると、通常であれば書き換えられます)。このパラメータのデフォルト値はありません。

3.2.6 %duration% ログオプションで使用される時間単位についての記述の明確化

「Log Format」節 (『Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.14 構成ファイルリファレンス』) によると、%duration% オプションは、サーバーが要求の処理に費やしたミリ秒単位の時間を示すと説明されています。

より明確な記述は次のようになります。

- Solaris および AIX では、サーバーは時間をマイクロ秒単位で計算および記録します。
- 一方、Windows、HP-UX、および Linux では、サーバーは時間をミリ秒単位で計算し、マイクロ秒単位で記録します。

3.2.7 新しいディレクトリサービスの明示的な選択が必要なことについての記述の明確化

「Configuring Directory Services」節 (『Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.14 Administration Guide』) には、ディレクトリサービスを作成する方法が説明されています。特定のプロキシサーバーインスタンスと一緒に新規ディレクトリサービスを使用する場合、ディレクトリサービスを「Selecting Directory Services」節の説明に従って選択する必要があります。

3.2.8 admin.conf ファイルに関する情報

install-dir/proxyadmserv/config ディレクトリに格納されている admin.conf ファイルは、Proxy Server が維持する内部用構成ファイルです。このファイルは変更しないでください。

3.2.9 <Client> タグの日付と時刻のパラメータ

Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.15 では <Client> タグの新しいパラメータがいくつかサポートされていますが、これらのパラメータの説明を次の表に示します。

パラメータ	説明
date-start および date-end	これら 2 つのパラメータは、時間間隔の開始日付と終了日付をそれぞれ指定します。これらは UNIX の date コマンドの書式の値を取りますが、タイムゾーンの指定は除外します。さらに、date コマンドの書式の平日部分は省略可能です。
day-start および day-end	これら 2 つのパラメータは、1 月の中の日間隔の開始日と終了日をそれぞれ指定します。これらは 1 から 31 までの範囲の値を取ります。
month-start および month-end	これら 2 つのパラメータは、1 年の中の月間隔の開始月と終了月をそれぞれ指定します。これらは値 Jan、Feb、Mar、Apr、May、Jun、Jul、Aug、Sep、Oct、Nov、および Dec を取ります。
time-start および time-end	これら 2 つのパラメータは、1 日の中の時刻間隔の開始時刻と終了時刻をそれぞれ指定します。これらは、24 時間形式の書式 hour:minute:second の値を取ります。
weekday-start および weekday-end	これら 2 つのパラメータは、1 週間の中の日間隔の開始日と終了日をそれぞれ指定します。これらは値 Sun、Mon、Tue、Wed、Thu、Fri、および Sat を取ります。

例

- 次の例は、毎週火曜日から金曜日までの、午前 9:00 から午後 5:00 までの時間間隔を指定したものです。

```
<Client weekday-start="Tue" weekday-end="Fri" time-start="09:00:00"
time-end="17:00:00">
```

- 次の例は、毎月 1 日から 15 日までの、午前 12:00 から午前 4:00 までの時間間隔を指定したものです。

```
<Client day-start="1" day-end="15" time-start="00:00:00" time-end="04:00:00">
```

3.2.10 http-client-config SAF の forward-unread-request-body パラメータ

『Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.14 Configuration File Reference』の「http-client-config」には、Proxy Server 4.0.14 で使用可能になった forward-unread-request-body パラメータに関する情報が含まれていません。次の表に、このパラメータに関する情報を示します。

パラメータ	説明
forward-unread-request-body	(省略可能) 要求ヘッダーとは別の TCP パケットとして到着した要求本体を元のサーバーに転送すべきかどうかを示すブール演算子。デフォルト値は false ですが、これは、要求ヘッダーとは別の TCP パケットとして到着した要求本体が元のサーバーに転送されないことを意味します。

3.2.11 obj.conf ファイルの <Include> タグ

Proxy Server 4.0.15 では、obj.conf ファイルの新しいタグがサポートされています。このタグ <Include> は別のファイルの内容を obj.conf ファイルにインクルードします。したがって事実上、構成情報を管理しやすいように obj.conf の内容を複数のファイルに分割することが可能となります。

<Include> タグの構文は次のとおりです。

```
<Include>
  filename
</Include>
```

filename は、obj.conf ファイル内の <Include> タグの位置にインクルードされるファイルの名前です。

<Include> タグを使用するには次の点に留意してください。

- <Include> タグは <Object> のコンテキストの外側で使用できます。たとえば、あるファイル内にすべての Init ディレクティブを格納したあと、そのファイルを obj.conf ファイルの先頭にインクルードしたりすることができます。
- インクルード対象ファイルにはほかのインクルード対象ファイルを含めることができます。つまり、インクルード対象ファイル自身に <Include> タグを含めることができます。
- インクルード対象ファイルが <Object> の境界を横断することはできません。つまり、インクルード対象ファイル内で、あるオブジェクトを終了して別のオブジェクトを開始することはできません。

3.2.12 dns-config SAF の lookup-ipv6-first パラメータ

Proxy Server 4.0.15 では、DNS ディレクティブの dns-config SAF 用の新しいパラメータ lookup-ipv6-first がサポートされています。次の表に、この新しいパラメータに関する情報を示します。

パラメータ	説明
lookup-ipv6-first	(省略可能) IPv6、IPv4 のどちらのアドレスを先に検索するかを指定するブール演算子。デフォルト値は false ですが、これは、IPv4 アドレスが先に検索されることを意味します。

3.2.13 NameTrans ディレクティブの regexp-redirect 関数

『Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.14 Configuration File Reference』の「NameTrans」には、regexp-redirect 関数についての情報が含まれていません。この関数についての情報を次に示します。

regexp-redirect 関数は NameTrans クラスのディレクティブに適用可能です。

regexp-redirect 関数を使うと、URL を変更し、その更新後の URL をクライアントに送信することができます。クライアントが古いパスでサーバーにアクセスすると、サーバーはその要求を新しい URL に対する要求として処理します。

次の表では、regexp-redirect 関数のパラメータについて説明します。

パラメータ	説明
from	マッチング対象となる要求 URL の接頭辞の正規表現。

パラメータ	説明
url/url-prefix	url は、クライアントに返す完全な URL を指定します。 url-prefix は、クライアントに返す新しい URL 接頭辞を指定します。from 接頭辞がこの URL 接頭辞で単純に置き換えられます。これらのパラメータを一緒に使用することはできません。
escape	(省略可能) URL に対して util_uri_escape アクションを使用して URL を送信するようにサーバーに指示するフラグ。これは yes、no のいずれかにすべきです。デフォルトは yes です。 util_uri_escape については、Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.14 NSAPI Developer's Guide を参照してください。
bucket	(省略可能) これは obj.conf のすべての関数に共通します。

3.2.14 send-error SAF の status-code および status-desc パラメータ

Proxy Server 4.0.15 では、Service および Error ディレクティブの send-error SAF 用の新しいパラメータが 2 つサポートされています。次の表に、これらの新しいパラメータに関する情報を示します。

パラメータ	説明
status-code	(省略可能) HTTP 応答に設定すべき状態コードを指定します。これは、code パラメータとは異なります。code が send-error SAF の実行を起動するエラーコードを指定するのに対し、status-code は、send-error SAF によって生成される応答に設定すべき状態コードを指定するからです。
status-desc	(省略可能) 状態コードの理由を表す文字列を指定します。

3.2.15 magnus.conf ファイルの新しいディレクティブ

表 3-3 では、magnus.conf ファイルに追加されたディレクティブの一覧を示します。これらのディレクティブについては、『Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.14 Configuration File Reference』の「Syntax and Use of the magnus.conf File」で説明されていません。

表 3-3 magnus.conf ディレクティブ

パラメータ	有効な値	説明
ChannelPoolMonitorInterval	任意の秒数	(4.0.14 リリースで追加されました。) Proxy Server が、チャンネルプールの期限切れの接続または閉じられた接続を確認する頻度 (秒単位) を指定します。この値は、ChannelPoolValidate が true に設定されている場合に使用されます。デフォルト値は 30 です。
ChannelPoolValidate	true、false	(4.0.14 リリースで追加されました。) Proxy Server が、ChannelPoolMonitorInterval 秒ごとに、チャンネルプールの期限切れの接続または閉じられた接続を積極的に確認するようにします。デフォルト値は false です。

表 3-3 (続き) magnus.conf ディレクティブ

パラメータ	有効な値	説明
ChannelReuseValidate	true、false	(4.0.14 リリースで追加されました。) Proxy Server が、チャンネルプール内のチャンネルを、再利用する前に検証するようにします。デフォルト値は false です。
FtpPoolSize	1 から 65536	(4.0.12 リリースで追加されました。) FTP 接続プールのサイズを指定します。デフォルト値は 256 です。
FtpPoolLife	1 から 65536	(4.0.12 リリースで追加されました。) 接続の寿命を秒単位で指定します。これは、監視スレッドによって閉じられるまでに FTP 接続がプール内で未使用の状態を保持している時間です。デフォルト値は 3600 です。
FtpPoolMonitorThread	OFF	(4.0.12 リリースで追加されました。) FTP スレッドの機能の監視に関するプール値を指定します。デフォルトは ON です。
FtpPoolMonitorLevel	0	(4.0.12 リリースで追加されました。) 整数値を指定します。0 に設定すると、プール監視スレッドは接続が無効か有効かをチェックします。 1 に設定すると、接続に対して NOOP コマンドが送信され、応答を待機します。応答の取得に失敗すると、プールから接続が削除されます。デフォルトレベルは 1 です。
FtpPoolMonitorInterval	30 から 65536	(4.0.12 リリースで追加されました。) プールの接続の監視間隔を秒単位で表す整数値を指定します。デフォルト値は 30 です。
LDAPPoolMonitorThread	ブール型の値を取ります。	(4.0.12 リリースで追加されました。) TRUE に設定すると、ldap 接続プールを一定の間隔で監視する ldap プール監視スレッドが作成されます。デフォルト値は FALSE です。
LDAPPoolMonitorInterval	整数の引数を取ります。	(4.0.12 リリースで追加されました。) ldap プール監視スレッドが ldap 接続プールを検査する間隔を指定します。デフォルト値は 30 です。
LDAPPoolRevalidate	ブール型の値を取ります。	(4.0.12 リリースで追加されました。) TRUE に設定された場合、接続プールから取得された各接続について接続を再検証します。その後、呼び出し側に渡します。デフォルト値は FALSE です。
RouteOfflineCheckInterval	整数値を取ります。	(4.0.15 リリースで追加されました。) ルーティングサブシステムによってオフラインとマークされたゲートウェイのパフォーマンスを Proxy Server がチェックする間隔を秒単位で指定します。デフォルト値は 30 です。

3.2.16 http-client-config SAF のパラメータ

表 3-4 には、4.0.14 リリース以降に ObjectType ディレクティブの http-client-config SAF のために追加されたパラメータが一覧されています。これらのパラメータは、『Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.14 構成ファイルリファレンス』で説明されていません。

表 3-4 http-client-config SAF の新しいパラメータ

パラメータ	追加されたリリース	説明
タイムアウト (timeout)	4.0.17	(省略可能) タイムアウト間隔を秒単位で指定します。クライアントと起点サーバーの間でのデータ転送中に HTTP クライアントによって使用されます。デフォルト値は 300 秒です。
rewrite-error	4.0.17	(省略可能) 起点サーバーがエラーステータスを返す場合は常に、HTTP クライアントが Error ステージを実行したときのエラーステータスコードを指定します。400 以上の HTTP ステータスコードはエラーステータスを示し、ブール型の値を取ります。デフォルトでは、disabled です。

http-client-config SAF の詳細については、付録 A.4 「4.0.14 の諸機能および拡張機能」を参照してください。

3.2.17 アクセスログファイル内のキャッシュ完了ステータスの説明

アクセスログファイル内の各ステータスに関する情報を記録するために、「キャッシュ完了ステータス」を「オン」に変更することによってこのオプションを設定できます。

表 3-5 は、各キャッシュ完了ステータスとその説明を一覧したものです。

表 3-5 キャッシュ完了ステータス

状態	説明
WRITTEN	新しいキャッシュファイルが作成されました
ABORTED	Last-modified:header または Expires:header が無効なため、応答をキャッシュできませんでした。詳細を表示するには、ログステータスを fine に切り替えてください。
UP-TO-DATE	プロキシはリモートサーバーから、プロキシキャッシュエントリが更新されたため、このエントリを更新してはいけないという確認を受信します。
NO-CHECK	キャッシュからの要求の取得のためにリモートサーバーに接続しませんでした。
REFRESHED	既存のキャッシュファイルは、起点サーバーからの新しい内容で更新されました。
MUST-NOT-CACHE	このリモートサーバーの応答は、その応答をキャッシュしてはいけないことを示します。
DO-NOT-CACHE	リモートサーバーから受信されたドキュメントは、プロキシによってキャッシュされません。

3.2.18 LS 要素で maxrequestperconnection パラメータがサポートされる

Proxy Server 4.0.18 では、server.xml ファイルの LS 要素で maxrequestperconnection という名前の新しいパラメータがサポートされます。次の表に、この新しいパラメータに関する情報を示します。

パラメータ	説明
maxrequestperconnection	(省略可能) 単一の接続経由で許可される要求の数。デフォルト値は「0」ですが、これは、制限がないことを示します。

リスナーの構成方法の詳細については、次を参照してください。

<http://download.oracle.com/docs/cd/E19438-01/821-1883/aebbt/index.html>

3.2.19 virt-map SAF の説明

virt-map SAF は、仮想多重ホスティングを実装するために使用されます。virt-map SAF は、要求の Host: ヘッダーを使って URI をサーバー URL にマップします。対応する逆マッピングが、virt-map SAF によって自動的に挿入されます。

パラメータ	説明
host-regex	要求の Host: ヘッダー値と比較される正規表現を指定します。一致しない場合、仮想マッピングは適用されません。
from-prefix	マップされる URI 接頭辞を指定します。
to-prefix	要求をマップするべき URL 接頭辞を指定します。

仮想多重ホスティングの詳細については、次を参照してください。

http://download.oracle.com/docs/cd/E21692_01/821-1882/adypx/index.html

3.2.20 ACL 構成での IP アドレスの指定

次のドキュメントリンクで説明されている ACL 構成を参照してください。

http://download.oracle.com/docs/cd/E21692_01/821-1882/adyhq/index.html

ACL 構成で IP アドレスを指定する際に、ネットマスクを IP アドレスと一緒に使用できます。IP アドレスとネットマスクは、「+」文字で区切る必要があります。

次に例を示します。

```
allow (read,execute,info)
(user = "anyone") および
(ip = "10.12.171.97+255.255.255.0");
```

3.2.21 PAC ファイルの手動生成

次のドキュメントリンクで説明されている、PAT ファイルからの PAC ファイルの生成を参照してください。

http://download.oracle.com/docs/cd/E21692_01/821-1882/adyow/index.html

注： PAC ファイルを手動で生成したあと、プロキシサーバーを再起動する必要はありません。

3.2.22 キャッシュのパーティションサイズについて

次のドキュメントリンクで説明されているキャッシュ要素を参照してください。

http://download.oracle.com/docs/cd/E21692_01/821-1883/aebcl/index.html

ガベージコレクション (Garbage Collection、GC) が無効になっている場合や、GC が一時的にアクティブでない間にパーティションサイズが増えてしまった場合、キャッシュパーティションサイズが `maxsize` パラメータに指定された値を超える可能性があります。

3.2.23 Proxy Server のインメモリーファイルキャッシュについて

インメモリーファイルキャッシュに関する情報を、次に示します。

1. インメモリーファイルキャッシュは、ディスクキャッシュが有効である場合にのみ有効になります。
2. Proxy Server のインメモリーファイルキャッシュは、頻繁に使用されるディスクキャッシュファイルの内容をメモリー内キャッシュに書き込むために使用されます。
3. インメモリーファイルキャッシュ構成には `maxage` という名前のパラメータがありますが、現在適用されていません。これは、古くて無効な内容を提供することによる HTTP 違反を避けるためです。
4. インメモリーファイルキャッシュの内容は、ディスクキャッシュの内容に密接に追従します。ディスクファイルが更新されると、そのディスクファイルのインメモリーバージョンが、次の要求で更新されます。

インメモリーファイルキャッシュ構成の詳細については、次を参照してください。

http://download.oracle.com/docs/cd/E21692_01/821-1883/aebcm/index.html

3.2.24 プロキシアレイの使用

次のドキュメントリンクで説明されているプロキシアレイを参照してください。

http://download.oracle.com/docs/cd/E21692_01/821-1882/6nmr9g0ap/index.html

次に示す情報は、プロキシアレイに関するものです。

- プロキシアレイを作成しても、PAT ファイルから PAC ファイルを生成する前に、管理 GUI の「Configure System Preferences」ページを使ってプロキシアレイを明示的に有効にする必要があります。
- マスターでないプロキシアレイメンバーを構成する際には、URL フィールドを `http://MasterProxy/pat` に設定するようにしてください (MasterProxy はマスタープロキシの FQDN)。マスタープロキシの `pat` マッピングが `/pat` をマスタープロキシの `pat` ファイルにマップするように構成されていることを確認してください。

3.3 マニュアル、サポート、およびトレーニング

Oracle の Web サイトは、次の追加リソースに関する情報を提供します。

- ドキュメント
(<http://www.oracle.com/technetwork/documentation/index.html>)
- サポート (<http://support.oracle.com/>)
- トレーニング (http://education.oracle.com/pls/web_prod-plq-dad/db_pages.getpage?page_id=315)

Proxy Server 4.0 の以前のリリースでの諸機能 および拡張機能

4.0.14 より前の Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0 リリースの機能および拡張機能については、各リリースに固有のリリースノートで説明されています。これらは次の場所から入手できます。

<http://download.oracle.com/docs/cd/E19438-01/>

この付録では、Oracle iPlanet Web Proxy Server リリース 4.0.14、4.0.15、4.0.16、および 4.0.17 で提供される次の重要な諸機能および拡張機能を一覧表示します。

A.1 4.0.17 の諸機能および拡張機能

- Web Proxy Server 4.0.17 は SUSE LINUX SLES v10 Service Pack 3 で検証されています。
- JRE 6 バージョンは、4.0.17 にバンドルされています。詳細については、第 3.2.1 節「[検証マトリックス内の JRE 情報についての記述の明確化](#)」を参照してください。

A.2 4.0.16 の諸機能および拡張機能

um-define-junction SAF は、Cookie の書き換えを設定するためのいくつかの新しいパラメータを受け入れます。この拡張機能については、第 3.2.5 節「[um-define-junction SAF の新しいパラメータ](#)」を参照してください。

A.3 4.0.15 の諸機能および拡張機能

- 時間間隔を使用することで、特定のクライアントから受け取った要求についてディレクティブの実行を制限できるように、<Client> タグに日付 / 時刻パラメータが追加されました。詳細については、第 3.2.9 節「[<Client> タグの日付と時刻のパラメータ](#)」を参照してください。
- 特定の JavaScript 変数で JavaScript 変数書き換えを抑制するための disable-javascript-rewrite パラメータが、um-define-junction SAF に追加されました。詳細については、第 3.2.5 節「[um-define-junction SAF の新しいパラメータ](#)」を参照してください。
- obj.conf へのほかのファイルのインクルードをサポートするための <Include> タグが、obj.conf ファイルの構文に追加されました。詳細については、第 3.2.11 節「[obj.conf ファイルの <Include> タグ](#)」を参照してください。
- IPv6、IPv4 のどちらのアドレスを先に検索するかを制御するための lookup-ipv6-first パラメータが、dns-config SAF に追加されました。詳細

については、第 3.2.12 節「[dns-config SAF の lookup-ipv6-first パラメータ](#)」を参照してください。

- `status-code` および `status-desc` パラメータが `send-error SAF` に追加されました。詳細については、第 3.2.14 節「[send-error SAF の status-code および status-desc パラメータ](#)」を参照してください。
- オフラインとしてマークされたゲートウェイの健全性を Proxy Server が検査する頻度を設定するための `RouteOfflineCheckInterval` ディレクティブが、`magnus.conf` ファイルに追加されました。詳細については、第 3.2.15 節「[magnus.conf ファイルの新しいディレクティブ](#)」を参照してください。
- Proxy Server でサポートされる NSS のバージョンが 3.12.6 に更新され、NSPR のバージョンが 4.8.4 に更新されました。
- 管理 GUI に「Enter ACL List Cache Size」フィールドが追加され、この値のインタラクティブな指定がサポートされました。
- Proxy Server を再起動しないで監視対象の値をリセットするための「Reset Status」ボタンが、管理 GUI の「Proxy-instance」⇒「Server Status」⇒「Monitor Current Activity」ページに追加されました。
- このリリースでは次のマニュアルの問題に対処しています。

問題 ID	説明
6294290	Proxy 4: <code>admin.conf</code> に関するドキュメントがありません。 参照先 第 3.2.8 節「admin.conf ファイルに関する情報」
6962675	Proxy 4 ドキュメント RFE - <code>regexp-redirect</code> 関数についての記述を WPS ドキュメント / マニュアルに多少追加する必要があります。 参照先 第 3.2.13 節「NameTrans ディレクティブの regexp-redirect 関数」
6965246	DOCS: WPS4.0.14 で、 <code>http-client-config</code> 関数に新しいパラメータが導入されています。 参照先 第 3.2.10 節「http-client-config SAF の forward-unread-request-body パラメータ」

A.4 4.0.14 の諸機能および拡張機能

- `magnus.conf` ファイルに `ChannelPoolValidate` ディレクティブが追加されました。このディレクティブは、チャンネルプールの期限切れの接続または閉じられた接続を積極的に確認するかどうかを制御します。
- `magnus.conf` ファイルに `ChannelPoolMonitorInterval` ディレクティブが追加されました。このディレクティブは、チャンネルプールの期限切れの接続または閉じられた接続を確認する頻度を指定します。
- `magnus.conf` ファイルに `ChannelReuseValidate` ディレクティブが追加されました。このディレクティブは、持続的接続を、再利用する前に検証するかどうかを制御します。
- `http-client-config SAF` に `always-retry-stale-keep-alive` パラメータが追加されました。このディレクティブは、期限切れの持続的接続のために要求が失敗したときに、再試行の数が 0 に設定されている場合でも HTTP クライアントが失敗した要求を再試行するかどうかを制御します。

B

Proxy Server 4.0 の以前のリリースで解決済みの問題

この章では、以前の Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0 リリースで修正されたもっとも重要な問題を一覧表示します。

- [4.0.17 で修正された問題](#)
- [4.0.16 で修正された問題](#)
- [4.0.15 で修正された問題](#)
- [4.0.14 で修正された問題](#)
- [4.0.13 で修正された問題](#)
- [4.0.12 で修正された問題](#)
- [4.0.11 で修正された問題](#)
- [4.0.10 で修正された問題](#)
- [4.0.9 で修正された問題](#)
- [4.0.8 で修正された問題](#)
- [4.0.7 で修正された問題](#)
- [4.0.6 で修正された問題](#)
- [4.0.5 で修正された問題](#)
- [4.0.4 で修正された問題](#)
- [4.0.3 で修正された問題](#)
- [4.0.2 で修正された問題](#)
- [4.0.1 で修正された問題](#)

B.1 4.0.17 で修正された問題

表 B-1 では、Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.17 で解決された問題を一覧表示します。ドキュメントの問題については、表の「概要」列に「Doc:」という接頭辞が付いています。

表 B-1 Oracle Proxy Server 4.0.17 で修正された問題

問題 ID	概要
12087481	サーバーに到達できない場合は常に、Proxy 4.0 が <code>must-revalidate/proxy-revalidate/s-maxage</code> を引き受ける必要があります。
12196137	特定の状況で、キャッシュフィルタが 2 回挿入または削除されません。
12199013	管理: プロキシ配列テーブル (PAT) の「マッピングの作成」オプションの GUI を変更します。
12201262	管理: 新しいインスタンスの作成中に <code>createInstance.exe</code> エラーが発生します。
12206845	Web Proxy 4.0 FTP サブシステムでログメッセージがクリアされません。
12207918	管理: プロキシサーバーが起動または停止されるときのコピーインタフェースの動作に一貫性がありません。
12208047	Firefox 2.0 ブラウザの使用中に「オン」ボタンと「オフ」ボタンが同じレベルにありません。
12306924	リダイレクト SAF が不適切な Location: ヘッダーを生成します。
12306995	Doc: Web Proxy 4.0.14+ リリースノートに、最小 JDK バージョンが 1.6 BU であると示されています。詳細については、 第 3.2.1 節「検証マトリックス内の JRE 情報についての記述の明確化」 を参照してください。
12307931	Web Proxy 4.0 は <code>transfer-encoding:</code> ヘッダーをキャッシュすべきではありません。
12308510	URL マッピングで HTTP 圧縮が機能しません。
12308516	Doc: アクセスログファイル内のキャッシュ完了ステータスの説明がありません。詳細については、 第 3.2.17 節「アクセスログファイル内のキャッシュ完了ステータスの説明」 を参照してください。
12308568	管理: 「マッピングの作成」内の PAC マップのデフォルト値が間違っています。
12308764	ガベージコレクションログメッセージ内の <code>total space collected</code> パラメータの値が負です。
12308877	<code>http</code> 圧縮で、クライアントに送信された応答の本文の量を表す <code>flex-log</code> パラメータが更新されるべきです。
12309349	プロキシチェーン内のヘッダーにクライアント IP アドレスが見つかりません。
12309663	Doc: <code>http-client-config</code> SAF の <code>rewrite-error</code> オプションを Web Proxy Server に追加する必要があります。詳細については、 第 3.2.16 節「http-client-config SAF のパラメータ」 を参照してください。
12327750	ルーティング設定内のルートの Cookie 値を設定またはコピーするためのインタフェースが必要です。
12328313	4.0.15 リリースノートに CR#6917211 および CR#6917212 の詳細が記載されていません。
12387354	管理 CGI で SHA1 フィンガープリントの場合が考慮されていません。

表 B-1 (続き) Oracle Proxy Server 4.0.17 で修正された問題

問題 ID	概要
12393186	Doc: <code>http-client-config</code> SAF の <code>timeout</code> パラメータが使用できません。詳細については、第 3.2.16 節「 <code>http-client-config</code> SAF のパラメータ」を参照してください。
12396179	顧客がユーザー認証を有効にしたあと、Web Proxy Server が HTTPS サイトに移動できません。HTTP サイトには移動できます。
12396620	4.0.17 でのバージョン変更
12397532	Web Proxy 4.0 は JDK 6U24 をバンドルするべきです
12405702	HTTP クライアント: 21 バイトより長い要求ヘッダーの名前が歪みます。
12412400	SUSE LINUX SLES v10 Service Pack 3 での Web Proxy Server 4.0.17 の検証に対する要求。
12610835	URL マッピング: Cookie に設定されていると、サーバーが CPU メモリーを消費します。この値にはバックスラッシュが含まれません。
12615471	サーバーの起動メッセージにバージョン情報が表示されません。
12615577	Windows 上で管理サーバーが起動していません。
12615605	新しく作成されたプロキシインスタンスが HPUX を起動しません。

B.2 4.0.16 で修正された問題

表 B-2 は、Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.16 で解決された問題の一覧です。

表 B-2 iPlanet Web Proxy Server 4.0.16 で修正された問題

問題 ID	概要
6941325	Doc: 管理ガイドのキャッシュ容量を更新する必要があります。 参照先 第 3.2.2 節「最大キャッシュ容量の増加」
6943974	Doc: フレキシブルロギングオプション <code>%Req->vars.xfer-time%</code> についての説明が必要です。 参照先 第 3.2.3 節「flex-init 関数の <code>%Req->vars.xfer-time%</code> オプション」
6976513	アクセスログエントリの作成中に <code>clf-request</code> の改行をオプションで取り除きます。 詳細については、第 3.2.4 節「flex-log SAF の <code>clf-request-leading-whitespace</code> パラメータ」を参照してください。
6977597	管理: 「オープンプロキシセキュリティーホール」についての適切なドキュメントおよび認識が必要です (バグ # 6565436)。
6977869	イベントスケジューラはエラーログ内の適切なメッセージによって、スケジュールされたコマンドの完了を報告する必要があります。
6981847	URL フィルタ: ハッシュテーブルの検索がロックなしで実行されません。
6984479	WPS4.0.14 サポートマトリックスが正しくありません。
6987488	SOCKS サーバーでは 128 文字より長いログファイル名が許可されません。

表 B-2 (続き) iPlanet Web Proxy Server 4.0.16 で修正された問題

問題 ID	概要
6988564	管理: 新規インスタンスのサーバー ID の長さについて一貫性のある制限を設定します。
6989877	URL マッピングでは、Set-cookie: ヘッダー内の domain パラメータの書き換えも転送も行われません。 2つの新規パラメータ (set-cookie-domain-from および set-cookie-domain-to) が um-define-junction SAF に導入されました。詳細については、第 3.2.5 節「 um-define-junction SAF の新しいパラメータ 」を参照してください。
6991199	関係しない PID を持つ pid ファイルがあるときにプロキシが正しく起動する必要があります。
6991975	URL マッピング: Set-cookie: ヘッダーの path パラメータを書き換える機能が必要です。 2つの新規パラメータ (set-cookie-path-from および set-cookie-path-to) が um-define-junction SAF に導入されました。詳細については、第 3.2.5 節「 um-define-junction SAF の新しいパラメータ 」を参照してください。
6994416	Doc: %duration% が Red Hat Linux ではミリ秒で計測されます (ドキュメントにはマイクロ秒と記載されています)。 参照先 第 3.2.6 節「 %duration% ログオプションで使用される時間単位についての記述の明確化 」
6997088	3.6 との互換性のために Forwarded: ヘッダーをサポートする必要があります。
7001073	Doc: ACL データベース名が機能しません。 参照先 第 3.2.7 節「 新しいディレクトリサービスの明示的な選択が必要なことについての記述の明確化 」
7002721	LDAP データベースエラーに対する冗長および詳細ロギングの強化。
7003922	クラスタ: SSL が有効な管理サーバーでは、サーバーをクラスタデータベースに追加できません。また、ファイルを転送できません。
7006581	WPS4.0.12: 高い CPU 使用率。
7006595	4.0.16 でのバージョン変更。
7006908	Doc: URL マッピングに新しく追加された Cookie 書き換え機能について記載します。 参照先 第 3.2.5 節「 um-define-junction SAF の新しいパラメータ 」
7006910	Doc: "flex-log" SAF に追加された新しいパラメータについて記載します。 詳細については、第 3.2.4 節「 flex-log SAF の clf-request-leading-whitespace パラメータ 」を参照してください。
7007911	クラスタ: 管理 CGI が設定をスレーブに転送しようとするクラッシュします。
7007928	クラスタ: 管理 CGI の SSL クライアントがすべてのサーバー証明書をデフォルトで信頼する必要があります。
7009238	Windows 2008 での LDAP 接続の問題。

表 B-2 (続き) iPlanet Web Proxy Server 4.0.16 で修正された問題

問題 ID	概要
7010394	サーバーの起動時に、正しくない形式の password.conf の処理中にクラッシュします。
7011418	URL マッピング: リダイレクトによってクエリー文字列が失われます。
7014437	URL マッピング: コンテンツ /URL 書き換えによって応答が破壊されます。
7015526	管理サーバーインタフェースの「Cluster」タブをクリックすると、空白ページが表示されます (HP-UX)。

B.3 4.0.15 で修正された問題

表 B-3 では、Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.15 で解決された問題を一覧表示します。

表 B-3 Proxy Server 4.0.15 で修正された問題

問題 ID	概要
6524998	Proxy 4.0 の urlldb ユーティリティが、無効な正規表現の処理時に失敗します
6917211	TRACE 要求に対して Proxy 4.0 でヒープオーバーフローが発生します
6917212	ダイジェスト認証の処理中に Proxy 4.0 でバッファオーバーフローが発生します
6942431	Proxy 4.0: <Client> タグに時間関連のパラメータを追加することを検討してください
6945755	Proxy Server で、ドキュメントの記載に従って CPU 数と等しい値にアクセプタスレッド数を設定することができません
6946517	WPS4.0: SSL で OPTIONS メソッドが機能しません
6946561	RFE: Proxy 4.0 - 管理 GUI 経由で ACLCacheMax を設定する機能
6946565	RFE - サーバーを再起動しないでパフォーマンスカウンタをリセットする機能が必要です
6946566	RFE - URL リストを別のファイルで管理するなど、個別のインクルードファイルを使って obj.conf を管理する機能
6949070	Proxy 4.0: urlldb: 期限切れのキャッシュファイルが削除されません
6951418	Proxy 4.0: イベントスケジューラ: 時刻の「ズレ」によりイベントの失敗が発生します
6952442	Proxy 4.0 のキャッシュ管理プログラムが obj.conf の <Client> タグで失敗します
6955415	Proxy Server 4.0.13 - virt-map 関数に rewrite-host パラメータを追加する必要があります
6957135	WPS ドキュメント - magnus.conf の新しいディレクティブを構成ファイルリファレンスに追加する必要があります。 今後、4.0 ドキュメントへのすべての更新は、リリースノートにのみ記載されます。
6957675	Proxy 4.0 の管理 GUI で、ユーザーが NameTrans fn="regexp-redirect" (正規表現 URL リダイレクト) を編集した際に警告が表示されます
6957676	WPS4.0 の基本認証が、通常のマッピングのみでは機能しません
6960464	Proxy 4.0 - 負荷分散の健全性検査で、タイムアウトと実行頻度を設定できるようにする必要があります

表 B-3 (続き) Proxy Server 4.0.15 で修正された問題

問題 ID	概要
6964554	Proxy 4.0 RFE - cu が DNS 検索の順序を選択できるようにするための新しい lookup-ipv6-first
6965840	フォワードプロキシ構成で、Service SAF のクエリーパラメータが機能しません
6965842	RFE: send-error で「status」パラメータを指定できるようにします
6965883	4.0.15 でのバージョン変更
6966757	WPS 4.0.14: 「/」スラッシュがない場合に URL 書き換え問題 (um-output) が発生します
6968929	NSS 3.12.6 を統合します
6970769	SOCKS ログメッセージに無効なセッション ID が含まれます
6970776	Proxy 4.0: SOCKS サーバーで意味のあるエラーログ情報が出力されるようにすべきです
6972347	Proxy 4.0: キャッシュ内の応答を切り詰めたものが、プロキシから提供されます
6974046	Proxy Server 4.0.14 (SVR4 パッチ) での DTD ファイル名の変更に関する問題
6974382	Proxy 4.0: 「URL マッピング」で JavaScript の書き換えを選択的に行えるようにすべきです
6974692	SOCKS プロキシのホスト名解決: ホスト名が未解決であるのに、クライアント上のポートへの接続のリターンが失敗しません
6977431	管理 GUI でのプロキシサーバーのアクセプタスレッド数を、ドキュメントの記載に従って CPU 数と等しい値にすべきです

B.4 4.0.14 で修正された問題

表 B-4 では、Oracle iPlanet Web Proxy Server リリース 4.0.14 で解決された問題を一覧表示します。

表 B-4 Proxy Server 4.0.14 で修正された問題

問題 ID	概要
6914759	プール監視スレッドの間隔を設定可能にするべきです。
6916393	Proxy 4.0 チャンネルプールの実装: プールされたチャンネルのオプションの検証が必要です。
6917624	Proxy 4.0: キープアライブ接続の期限が切れている場合、httpclient は (オプションで) 常に再試行するべきです。
6917655	Proxy 4.0: 再利用の前に (オプションで) 接続を検証します。
6920803	新しいディレクティブのドキュメント化: 6916393 の修正の一部として ChannelPoolValidate が追加されました。
6920804	新しいディレクティブのドキュメント化: 6914759 の修正の一部として ChannelPoolMonitorInterval が追加されました。
6920805	新しいディレクティブのドキュメント化: 6917624 の修正の一部として ChannelReuseValidate が追加されました。
6920806	新しいパラメータのドキュメント化: 6917655 の修正の一部として always-retry-stale-keep-alive が追加されました。
6920836	パッチ #120981-19 の README に CR#6648470 が記載されていません。
6921169	マニュアルに http-client-config の「retries」パラメータに関する説明がありません。

表 B-4 (続き) Proxy Server 4.0.14 で修正された問題

問題 ID	概要
6921170	retries="0" での動作が説明されていません。
6921721	Proxy 4.0: linux 上での負荷の高い状況での障害。
6923914	SJSPS 4.0.13 サーバーインスタンスが、T5240 Niagara 認証トークン「Sun Metaslot」のための起動に失敗します。
6931137	Proxy 4.0 ブランド変更: インストーラ: デフォルトのインストール場所の変更。
6931138	Proxy 4.0 ブランド変更: 製品名 / バージョン文字列の変更。
6931139	Proxy 4.0 ブランド変更: 管理 OLH: イメージとリンクの変更。
6931140	Proxy 4.0 ブランド変更: 管理 GUI 画面の上部のフレームを、Oracle のブランド変更を反映するように変更する必要があります。
6931141	Proxy 4.0 ブランド変更: 管理: 「バージョン」ポップアップウィンドウ内の著作権テキストを変更する必要があります。
6931142	Proxy 4.0 ブランド変更: Oracle のブランド変更の一部として製品の README ファイルを更新する必要があります。
6931143	Proxy 4.0 ブランド変更: インストーラ: インストーラの左の区画のイメージの変更。
6931988	Proxy 4.0 ブランド変更: インストーラにライセンスを表示すべきではありません。
6931989	Proxy 4.0 ブランド変更: ブラウザ IE8 および FF 3.5 のサポート。
6931990	Proxy 4.0 ブランド変更: Oracle のブランド変更の一部として製品ライセンスファイルを更新する必要があります。
6931991	Proxy 4.0 ブランド変更: インストーラ: 製品名を変更する必要があります。
6931994	Proxy 4.0 ブランド変更: インストーラ: インストーラ / アンインストールのログファイル名の変更。
6931996	Proxy 4.0 ブランド変更: インストーラ: インスタンス / 管理スクリプト / 設定内の著作権文字列を変更する必要があります。
6931997	Proxy 4.0 ブランド変更: DTD ファイル名を変更する必要があります。
6932000	Proxy 4.0 ブランド変更: 「Proxy-agent」ヘッダーのデフォルト値を変更する必要があります。
6932002	Proxy 4.0 ブランド変更: ACL テンプレート内のデフォルトの認証プロンプトを変更する必要があります。
6932476	Proxy 4.0 NTLM サポート: サーバーが接続プール内のアイドル接続の間違ったカウントを保持しています。
6932483	Proxy 4.0 NTLM: サーバーは、認証された接続を通過する応答をキャッシュすべきではありません。
6933138	Proxy 4.0 ブランド変更: 外部のヘッダーファイル内の著作権文字列の変更。
6933148	Proxy 4.0.13 管理 GUI のデフォルトのセキュリティー暗号化モジュールは NSS Generic Crypto Ser に設定されるべきではありません。
6933175	WPS で、ローカル fs からの任意のファイルの読み取りを許可する入力チェックエラーが発生します。
6933223	4.0.14 でのバージョン変更。
6933599	Proxy 4.0: 「Proxy-support:」ヘッダーのサポートに関する問題。
6933647	Proxy 4.0 ブランド変更: 管理 OLH: 新しい製品名を反映するための変更。

表 B-4 (続き) Proxy Server 4.0.14 で修正された問題

問題 ID	概要
6934367	Windows でアップグレードすると、「プログラムの追加と削除」に「Oracle iPlanet Web Proxy Server」のエントリが作成されます。
6936445	Proxy 4.0.13 - 2 つの新しい CA ルート証明書を管理 GUI から正しく表示できません。
6937256	管理 GUI の ACL 設定の下にある「送信」ボタンと「元に戻す」ボタンが Firefox 3.6 で表示されません。
6937459	プロキシが POST エンティティー本文のない POST ヘッダーを転送します。
6939617	Proxy 4.0 ブランド変更: インストール: 製品名を変更すると Windows のアップグレードが失敗します。
6939990	Proxy 4.0 ブランド変更: 管理 GUI: 「バージョン」ポップアップ内のイメージの変更。
6940022	Proxy 4.0: コンパイラのバージョン変更: Sun Studio 12 に移行します。
6941325	Proxy 4.0 のドキュメント: 『プロキシ管理ガイド』でキャッシュ容量を更新する必要があります。
6941493	Proxy 4.0 ブランド変更: パッケージ /rpm 関連ファイルに対する変更。
6941954	Proxy 4.0 ブランド変更: 管理サーバーのレルム文字列に「Web」接頭辞を含めるべきではありません。
6941956	Proxy 4.0 ブランド変更: OLH: 「Document Information」ページの変更 / 削除。
6944070	Proxy 4.0 ブランド変更: 管理 GUI バージョンのウィンドウタイトルを変更する必要があります。
6945311	Proxy 4.0: ブランド変更: 管理 GUI のプロキシエージェントヘッダーに Oracle iPlanet Proxy Server を表示する必要があります。
6945318	Proxy 4.0: キャッシュファイルの期限が切れているとき、urldb が無効な警告 / エラーメッセージを発行します。
6946167	Proxy 4.0 ブランド変更: Windows でのアップグレードで、「スタート」 > 「プログラム」の新しいエントリが作成されるべきではありません。
6955678	ディレクトリのアクセス権に関する問題。
6955684	ファイルのアクセス権に関する問題。
6955723	JSESSIONID に関する問題。
6955741	HTML ページに関する問題。
6955759	管理コンソールに関する問題 (パラメータ INSTANCE_NAME)。
6955761	管理コンソールに関する問題 (Reflected XSS)。
6955762	管理コンソールに関する問題 (パラメータ absolute)。
6955763	管理コンソールに関する問題 (パラメータ mime)。
6955764	管理コンソールに関する問題 (パラメータ cmd)。
6955765	管理コンソールに関する問題 (パラメータ type)。
6955766	管理コンソールに関する問題 (adminReferrer)。
6955769	管理コンソールに関する問題 (リソース)。
6956084	管理コンソールに関する問題 (ターゲット)。
6956086	管理コンソールに関する問題 (dscruser-lang)。
6956143	管理コンソールに関する問題 (clickjacking)。

B.5 4.0.13 で修正された問題

表 B-5 では、Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.13 で解決された問題を一覧表示します。

表 B-5 Proxy Server 4.0.13 で修正された問題

問題 ID	概要
6886805	ftp URL に対する POST 要求の処理中に、Proxy Server 4.0 が CPU 使用率の高いループに陥っているように見えます。これに伴ってメモリー使用量も増加します。
6896637	ftp HEAD 要求の処理中に Proxy Server 4.0 で CPU 使用率が上昇し、メモリーリークが発生します。
6896640	server.xml に GC 関連の設定が含まれていない場合、Proxy Server 4.0 が起動中に失敗します。
6900117	SSL/TLS の脆弱性に関する修正を含む NSS 3.12.5 を統合します。
6905852	キャッシュサブシステムのバグが原因で Proxy Server 4.0 が失敗します。
6862976	Proxy Server 4.0 の「map」SAF は、リモートサーバー上の特定のファイルへのマッピングを許可するべきです。
6875375	Proxy Server 4.0 管理 GUI の Cache View (cv) プログラムが失敗します。
6878190	インストールユーザーとインスタンスユーザーが同じ (たとえば、root) 場合、Proxy Server 4.0.x は Sun Fire T-Series Crypto Accelerator をサポートします。
6878699	grpfile ユーザーが複数のグループに属する場合、Proxy Server 4.0.8 にはこのユーザーに関する .htaccess の問題があります。
6885145	"HTTP3287: connection limit (XXXX) exceeded, closing socket" 要求が ConnectionQueue のサイズを超えるたびに、Proxy Server 4.0 はこのエラーメッセージを表示します。
6888184	アップグレード後、インストーラが Proxy Server 4.0.11 に意味不明なメッセージを表示します。
6891353	Proxy Sever 4.0.x で \$ 文字が認識されません。
6895030	負荷の高い状況で、既存のロックファイルが原因でキャッシュ完了状態が存在しないか、または空である可能性があります。
6897536	Proxy 4.0 は現在、「Proxy-support: Session-Based-Authentication」によって保証された動作をサポートしません。
6898929	Proxy 4.0.13 は Microsoft Windows 2008 Enterprise Edition をサポートします。
6900151	キャッシュオブジェクトのサイズがリモートサーバーで変更されたあとにそのオブジェクトが更新中であり、チャンク化エンコードが使用される場合、キャッシュ完了状態がサーバーのアクセスログに存在しません。
6901079	バックエンドサーバーから受信する任意のエラー応答に対して Error ステージを必要に応じて実行するように http client を強化できます。
6906258	Proxy Server 4.0 は、dbswitch.conf で任意の LDAP 検索フィルタをサポートする必要があります。
6906789	負荷の高い状況で、破損したキャッシュファイルが Proxy 4.0 のインストールキャッシュに生成される可能性があります。
6910914	send-error で URL マッピングが機能しません。

B.6 4.0.12 で修正された問題

表 B-6 では、Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.12 で解決された問題を一覧表示します。

表 B-6 Proxy Server 4.0.12 で修正された問題

問題 ID	概要
6856153	ftp サブシステムで高負荷時に Proxy 4.0 が失敗します。
6856800	Proxy Server 4.0.8 で、高負荷環境下でマッピングキャッシュが壊れます。
6869927	NSS 3.12 を統合します。
6882485	ICP が有効で MaxProcs が 1 より大きい場合に、Proxy Server 4.0 が起動中に失敗します。
6851886	妥当性検査のために ldap 接続プールを監視する専用スレッドを追加します。
6863071	(約 150 文字を超える) 長いクエリー文字列に対して Proxy Server 4.0 でキャッシュ処理が発生しません。
6864966	サービス名からバージョン番号を取り除くための機能要求 (Proxy Server 4.0.11)。
6864967	カスタム Proxy Server インストールのアップグレード中に javahome をチェックすることをユーザーに通知します。
6868580	4.0.12 でのバージョン変更。
6872808	Proxy Server 4.0 は Windows 2003 R2 SP2 をサポートするべきです。
6874449	Proxy Server 4.0 ビルドパッチスクリプトで、新しい buildpatch の場所の通知を受ける必要があります。
6876811	extended2 ログギングで、SSL トンネルが初期待ち時間および全体待ち時間をログに記録しません。
6882926	Solaris x86 で Proxy Server 4.0 の ICP ポートが利用できません。
6883024	Proxy Server 4.0 のバイト範囲の処理が壊れています。
6883480	キャッシュファイルの検索中に Proxy Server 4.0 が「不正な CIF エントリ」メッセージを表示します。
6883492	Proxy Server 4.0 が、x86 上のピアによる ICP メッセージを受信しません。
6878213	send-error 痰™、エラーファイルのパスをブラウザのロケールに基づいて選択するべきです。

B.7 4.0.11 で修正された問題

表 B-7 では、Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.11 で解決された問題を一覧表示します。

表 B-7 Proxy Server 4.0.11 で修正された問題

問題 ID	概要
6835885	Proxy Server 4.0 の ftp サブシステムには、メモリー破壊やサーバー障害を引き起こすバグが含まれています。
6837779	ftp 経由でディレクトリにアクセスしているときに、Proxy Server 4.0 の ftp サブシステムでメモリーリークが発生します。
6842576	Proxy Server 4.0 のキャッシュサブシステムはメモリー破壊を引き起こすバグを含んでおり、応答がキャッシュから取り出される場合に不完全な応答ヘッダーを返します。

表 B-7 (続き) Proxy Server 4.0.11 で修正された問題

問題 ID	概要
6844188	FTP 要求に対する応答をキャッシュから取り出しているときに、メモリー破壊により Proxy Server 4.0 が失敗する可能性があります。
6847078	Proxy Server 4.0 のキャッシュサブシステムは要求を処理する際に、破壊されたキャッシュファイルを特定し、そのようなファイルを処理しないようにすべきです。
6847467	pre-filter SAF を使用するように Proxy Server 4.0 を設定すると、サーバーが失敗します。
6853447	pre-filter SAF に関連付けられたスクリプトの先頭に空行が含まれていると、Proxy Server が失敗します。
6827602	Proxy Server 4.0 の統計生成で、「Client DNS cache」(host-to-ip)、「Host DNS cache」(ip-to-host) の両方に対するデータが表示されるべきです。
6836430	Proxy Server 4.0.9 で Expires ヘッダーが正しく処理されません。
6837471	Proxy Server 4.0.9 が Linux 上で統計ページの表示に失敗し、「500 Error」をスローします。
6838323	Proxy Server 4.0 で <NameTrans fn="set-variable" error="504"> を処理する際に、不正な「504 Gateway Timeout Error」が表示されます。
6838907	Proxy Server 4.0 用の Windows Installer が、サーバーインスタンスでは 1024 未満のポート値を許可しないのに、管理サーバーでは許可します。
6843724	Proxy Server 4.0 のガベージコレクションで、高負荷時に競合状態が発生することがあります。
6847488	Proxy Server 4.0 の管理インタフェースのバグにより、「+」文字を含むプレート割り当ての編集が困難になっています。
6847849	Proxy Server 4.0 の管理インタフェースでキャッシュの「Working Directory」を変更したときに、server.xml ファイルが更新されません。
6848296	Proxy Server 4.0 で、ACLCacheMax パラメータの使用中に認証の問題が発生します。
6849204	Proxy Server 4.0 で、parray モジュールの問題によりメモリー破壊やサーバー障害が発生する可能性があります。
6849650	MaxProcs が 1 より大きい値に設定されていると、再起動中に Proxy Server が失敗します。
6853436	「Set Cache Specifics」によるキャッシュサイズの更新中に server.xml が更新されません。
6808135	Proxy Server 4.0.9 の管理 GUI、管理 CLI の両方で、「Server Config Information」パネルにアクセスしているときに誤植の問題が発生します。
6825292	Proxy Server 4.0 の管理 GUI で、ip-dns-cache-init、host-dns-cache-init の両方のタイプの DNS キャッシュを有効化または無効化できるようにすべきです。
6840526	Proxy Server 4.0 で parray コードの問題が発生する可能性があります。
6841509	Proxy Server のインストール中に「Startup on Boot = yes」を選択すると、エラーが発生します。
6843134	自動 GC の冗長ロギングモードが必要です。

B.8 4.0.10 で修正された問題

表 B-8 では、Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.10 で解決された問題を一覧表示します。

表 B-8 Proxy Server 4.0.10 で修正された問題

問題 ID	概要
6764910	動的再構成 (DR) が原因で Proxy Server 4.0 が失敗します。
6783252	Proxy Server 4.0 は、リモートサーバーによって non-cacheable としてマークされた応答に対し、キャッシュ完了ステータスを表示すべきです。
6793247	Proxy Server が HTTP 要求ヘッダー内のキャッシュ指令を無視できるようにすべきです。
6559322	Proxy Server は、32G バイトを超える大きなサイズの Web プロキシキャッシュをサポートする必要があります。
6773378	URL フィルタリングで相対 URL を指定できるようにする必要があります。そうすれば、URL フィルタリングと負荷分散を併用しやすくなります。
6781954	Cookie の指定に使用される、URL マッピング機能の passthru-cookies パラメータが正しく機能しない場合が、ごくまれにあります。
6785653	プロキシ認証を含む POST の送信前に認証が行われていなかった場合、その POST が 407 エラーで失敗します。
6789769	URL フィルタ機能で CONNECT 要求が考慮されません。
6791870	Proxy Server の管理インタフェースで、同じ宛先への逆マッピングを複数作成することができません。
6798154	空白と単一引用符を含む特定の url 構文が、Proxy Emulator によって正しく変換されません。
6804616	Proxy Server 4.0.10 は次の機能をサポートします - HTTP/1.1 要求に対する透過プロキシのサポート。
6803379	Proxy Server 4.0.9 のパッチ (120983-16 および以前のバージョン) は、RHEL 3.0、4.0、および 5.0 に対するサポートを提供します。
6796045	Proxy Server の管理インタフェースで、監視機能の DNS キャッシュ情報が適切に更新されるべきです。
6754044	Windows で Proxy Server のアップグレードが失敗します。なぜなら、Windows では、Proxy Server 4.0 のインストールは 1 つしか存在できないからです。
6781259	Proxy Server のインストールウィザードで Java のバージョン情報が更新されません。
6820625	url で引用符のあとに空白が存在していると、URL の書き換えが失敗します。
6820622	without-lastmod が有効になっている場合に、Proxy Server が不正な If-modified-since: 要求ヘッダーを挿入します。
6817164	cbuild に、-R オプションの適切なヘルプメッセージを含めるべきです。
6816997	Proxy Server 4.0 の map SAF の HTTP リダイレクト機能に問題があります。
6812802	HP-UX 上で「Activate Statistics/Profiling」を有効にしても、DNS に関するプロキシ統計が表示されません。
6805450	DHML アプリケーションの使用中に Web Proxy Emulator で問題が発生します。

B.9 4.0.9 で修正された問題

表 B-9 では、Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.9 で解決された問題を一覧表示します。

表 B-9 Proxy Server 4.0.9 で修正された問題

問題 ID	概要
6712042	Proxy Server 4.0 の <code>cache_filter_remove</code> 機能でインスタンスがハングアップします。
6713723	Proxy Server 4.0 で、キャッシュのパーティションとセクションの <code>.size</code> ファイルに正確な値が表示されない場合があります。
6715885	Proxy Server 4.0 でキャッシュのロックファイルの問題に関するログのエラーメッセージがレポートされました。
6715891	Proxy Server 4.0 で CONNECT 要求のために作成されたテンプレートが正常に機能しません。
6721344	Proxy Server 4.0 にクライアントヘッダーを書き換えるための機能を実装するべきです。
6722629	Proxy Server 4.0 が PORT モードで構成される場合、FTP サブシステムでファイル記述子がリークします。
6722646	Proxy Server 4.0 で HTTP の部分応答の処理中に、キャッシュサブシステムでファイル記述子がリークします。
6723344	Proxy Server 4.0 の起動時に、キャッシュ統計情報収集ロジックが完全なキャッシュトラバーサルを実行します。これが何度も実行されることが原因で、サーバーの起動が遅くなります。
6725741	Proxy Server 4.0 の管理インタフェースの統計またはプロファイルの機能を無効にできません。
6727215	Proxy Server 4.0 のアクセスログで、大きい負の値が <code>xfer-time</code> に存在します。
6728447	Proxy Server 4.0.7 では、URL にバックスラッシュの付いたクエリースtringが含まれる場合に、ACL の処理に使用されるダイジェスト認証が失敗します。
6735228	Proxy Server 4.0 のキャッシュサブシステムで、特定の状況下でファイル記述子がリークします。
6739585	Proxy Server 4.0 で現在のキャッシュサイズを確認するための、より早い方法が必要です。
6740248	Proxy Server 4.0.7 で、管理 GUI の「Processes」と「Listen Queue Size」にデフォルト値ではなく NULL が表示されます。
674126	Proxy Server 4.0 のキャッシュサブシステムで性能最適化が必要です。
6745095	Proxy Server 4.0 はヘッダー名にスペースが埋め込まれた HTTP 応答を許容するべきです。
6745170	Proxy Server 4.0 は RHEL5 上でサポートされるべきです。
6746138	Proxy Server 4.0 は HTTP 要求のボディを書き換える機能を実装するべきです。
6747928	Proxy Server 4.0 を通過する FTP 要求に、URL <code>ftp://user:password@server</code> などパスワードに @ 文字が含まれている場合、正しくない応答が生成されます。
6750791	ACL サブシステムに問題があるため、Proxy Server 4.0.7 がロード中に失敗します。
6759153	URL のマッピングサブシステムに問題があるため、Proxy Server 4.0.8 が失敗します。
6762346	Proxy Server 4.0 で <code>cache-control</code> ヘッダーが適切に処理されません。
6768244	Proxy Server 4.0 でチャンネルのプールロジックが正常に機能しないため、サービスが利用できなくなります。また、メモリーリークの可能性があります。
6275141	Proxy Server 4.0 でファイルキャッシュ機能が実装されていません。
6767688	Proxy Server 4.0 で <code>cache-control</code> 指令の「 <code>only-if-cached</code> 」をサポートするべきです。

表 B-9 (続き) Proxy Server 4.0.9 で修正された問題

問題 ID	概要
6767691	Proxy Server 4.0 で cache-control 拡張の「stale-while-revalidate」をサポートするべきです。

B.10 4.0.8 で修正された問題

表 B-10 では、Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.8 で解決された問題を一覧表示します。

表 B-10 Proxy Server 4.0.8 で修正された問題

問題 ID	概要
6648112	Proxy Server 4.0.6 および 4.0.7 には EPSV FTP 転送モードを無効にする方法が用意されていません。
6655221	Proxy SOCKS Server 4.x 上でアイドル接続のための最大タイムアウトを長くしてください。
6660265	flexanlg/dpstats ログアナライザが大きなアクセスログファイルを処理できません。
6660814	Proxy Server 4.0 で、より一層具体的なオブジェクトのブロック / フォワード IP 文字が正しく適用されません。
6664392	Proxy Server 4.0 で、vary ヘッダーが適切に処理されません。
6664646	Proxy Server 4.0 で、via ヘッダーが適切に処理されません。
6670738	Proxy Server 4.0 の FTP サブシステムで「CPU の利用率が高い」問題が発生する可能性があります。
6688600	Proxy Server 4.0.7 管理 GUI の「Caching」の「Schedule Garbage Collection」ページを使用すると、am が server.xml ファイルに追加されます。
6692494	Proxy Server 4.0 でクライアントへの書き込みに失敗したときに、キャッシュファイルが開いていないときでもキャッシュフィルタによってマスクされます。
6692495	Proxy Server 4.0 がガベージコレクション / キャッシュ反復コード中に失敗することがあります。
6695257	URL マッピング機能を統合します。
6707473	FTP Proxy Server で、ヒープベースのバッファオーバーフローが発生します。
6708838	Proxy Server 4.0 での JDK 1.5 へのアップグレード。
6708842	Proxy Server 4.0 の遠隔測定機能。
6711396	顧客ログファイル内の dpstats ダンプコア。
6454382	逆プロキシサーバーは、set-cookie で Cookie domain 値の変更を許可すべきです。

B.11 4.0.7 で修正された問題

表 B-11 では、Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.7 で解決された問題を一覧表示します。

表 B-11 Proxy Server 4.0.7 で修正された問題

問題 ID	概要
6729343	サーバーの実行中に Windows 2003 上で Proxy Server 4.0.7 にアップグレードすると失敗します。 サーバーを停止せずに Windows 上で Proxy Server 4.0.6 から Proxy Server 4.0.7 にアップグレードすると、エラーによって処理に失敗します。 サーバーを停止してからアップグレードすれば、アップグレードが正常に実行されます。
6261401	URL フィルタファイルは、conf_bk ディレクトリではなく config ディレクトリの下に作成されるべきです。
6590476	FTP サブシステムが古い接続を正しく閉じません。
6591980	URL フィルタの所有権がサーバーインスタンスユーザーの所有者に設定されません。
6592079	バックアップファイルが間違った所有権で作成されています。
6594729	HTTP7756: 無効なレスポンスヘッダーを受信するが、ファイルがクライアントに提供されます。
6595773	Proxy Server 4.0.5 の FTP に不正なディレクトリリストが表示されます。
6596860	プールされた FTP 接続がリセットパケットを受信したら、Proxy Server は正しい応答を返すべきです。
6599212	非アクティブな接続がないか FTP 接続プールを監視する専用のスレッドが追加されません。
6600193	Proxy-Agent ヘッダーが動作しません。
6602044	ページを何度も再読み込みする間に、不正な FTP 応答が発生します。
6602049	ファイルアイコンやフォルダアイコンなどの internal オブジェクトに対する FTP 要求の処理を改善する必要があります。
6604108	無効な応答ヘッダーの処理中に、不正な応答が発生します。
6605322	キャッシュエントリを高速で削除するために、インプロセスクリーニング機能が提供されます。
6613934	ダイジェスト認証で、ユーザーが繰り返し認証を求められます。
6619592	削除したインスタンスに対して httpacl とエイリアスのディレクトリが存在します。
6620274	Proxy Server 4.0.6 では、親ディレクトリが存在しない場合、新しいキャッシュの作業用ディレクトリを作成できません。
6621398	Proxy Server 4.0.6 では、FTP サーバーのバックエンドにマップを転送しようとする、FTP サーバーが機能しなくなります。
6622805	Proxy Server 4.0 は、特定の FTP URL にアクセスしている間に応答なくなり、タイムアウトになります。
6622813	Proxy Server 4.0 は、キャッシュサイズが大きい場合、起動に非常に時間がかかります。
6628381	キャッシュが無効にされたプロキシインスタンスはきれいに削除できません。
6634127	メモリーが破損するとサーバーが失敗します。
6635864	管理インタフェースの「Manage Certificates」画面が正しく表示されません。
6639455	停止または再起動時に、Proxy Server が応答しません。
6641201	Proxy-Authenticate ヘッダーが転送プロキシ内でエンドクライアントに正しく渡されません。

表 B-11 (続き) Proxy Server 4.0.7 で修正された問題

問題 ID	概要
6648470	Proxy 4.0: 「Vary:」を含む応答の処理中に、メモリー破壊が発生する可能性があります。

B.12 4.0.6 で修正された問題

表 B-12 では、Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.6 で解決された問題を一覧表示します。

表 B-12 Proxy Server 4.0.6 で修正された問題

問題 ID	概要
6224535	タイムアウト機能が動作しません。
6460215	Proxy Server を経由して接続する場合、IPv6 対応の Web サイトに接続できません。
6478413	Proxy Server インスタンスをアンインストールしても、alias および httpacl ディレクトリから、インスタンスに対応したファイルが削除されません。
6494418	content-type パラメータが設定されている場合、block-multipart-posts パラメータが要求をブロックしません。
6505578	sockd デーモンが、UDP 関連の要求を処理するときにワークスレッドを使い切ってしまうことがあります。
6513846	Proxy Server 4.0.6 のマニュアルが更新されて、HTTPS キャッシュへの参照が削除されています。
6514870	テンプレートの削除オプションでテンプレートを削除しても、そのテンプレートの割り当ての一部が削除されません。
6520593	構成の設定内で使用されるテンプレートが機能せず、手動入力した正規表現が機能する理由を説明するために、「キャッシュ構成の設定でのテンプレートに対する正規表現の優先」という新しい節が『Proxy Server 4.0.6 管理ガイド』の第 16 章に追加されました。
6526659	インストーラで、間違ったサーバー起動コマンドが表示されます。
6529376	Windows での Proxy Server のデフォルトキャッシュサイズは 100M バイトですが、ヘルプページには 1.6G バイトと記されています。
6530476	起動スクリプトでの libjvm.sl ファイルへのパスが正しく設定されていません。
6534717	アクセスログで cache-status が有効になっている場合、ヘッダーで cache-control を no-cache に設定した要求を行うと、キャッシュファイルが書き込まれ削除されたというログが、アクセスログに繰り返し表示されます。
6537346	キャッシュファイルが作成されていない場合でも、ログエントリで、キャッシュステータスが書き込み済みと表示されます。
6538613	Proxy Server インスタンスのキャッシュディレクトリが変更された場合、cachegc がコアダンプします。
6541327	cachegc が間違って動作する場合があります。
6545753	Proxy Server が無効な要求行を検出した場合、紛らわしいエラーメッセージがエラーログに表示されます。
6546256	Windows で正規表現が obj.conf ファイルに正しく登録されません。
6546720	DNS キャッシュを有効にしている場合、特定のサイトに接続できません。
6547808	Windows でサービスマネージャーにより Proxy Server インスタンスを停止した場合に watchdog プロセスが失敗します。
6559837	ftp 要求の処理中にプロキシサーバーが失敗します。

表 B-12 (続き) Proxy Server 4.0.6 で修正された問題

問題 ID	概要
6560432	『Proxy Server 4.0.6 管理ガイド』とオンラインヘルプが更新されて、ソースポート番号についての説明が追加されています。
6562122	SSL Proxy Server インスタンスの場合、間違ったパスワード入力がエラーファイルに書き込まれません。
6562165	『Proxy Server 4.0.6 管理ガイド』が更新されて、ファイルキャッシュ機能への参照が削除されています。
6562585	『Proxy Server 4.0.6 リリースノート』が更新されて、NSPR の正しいバージョン番号が記されています。
6563262	ftp アクセス中に、情報がなく誤解される可能性があるエラーログメッセージが表示されます。
6564435	管理インタフェースにキャッシュセクションテーブルの詳細が正しく表示されません。
6565004	『Proxy Server 4.0.6 リリースノート』が更新されて、Proxy Server のマニュアルページへの正しいリンクが記されています。
6565021	2 つのスケジュールされたローテーション間でシステム時間が変更されると、内部ログのローテーションがファイルのローテーションを 2 回行う。
6565436	『Proxy Server 4.0.6 管理ガイド』の第 14 章の「逆プロキシの設定」節にある「逆プロキシ設定での順プロキシ機能の無効化」項が更新されて、逆プロキシサーバー構成でセキュリティー上の脆弱性を防止する方法に関する情報が追加されています。
6566246	エラーログ表示機能でのクロスサイトスクリプティング脆弱性。
6566309	URL データベース表示機能でのクロスサイトスクリプティング脆弱性。
6566352	Proxy Server を経由して IPv6 FTP サーバーに接続できません。
6566822	HTTP ヘッダーの値が非常に長い場合、Proxy Server でメモリー内容の破壊が生じることがあります。
6566836	flexanlg がコアダンプします。
6566889	「Configure System Preferences」ページでプロセスの値を設定したあと、値を null に戻せません。
6566924	ヘルプページが更新されて、「Configure System Preferences」ページのプロセスについてよりわかりやすく説明されています。
6568534	Proxy Server 3.6 のマニュアルの問題への参照が『Proxy Server 4.0.6 リリースノート』から削除されました。
6569516	Proxy Server が、ヘッダー名に空白が含まれていても応答を受け入れ、転送します。
6572128	ローカライズされたオンラインヘルプが更新され、関連した内容のヘルプページが正しく表示されるようになりました。
6572138	特定の接続に関連する情報がアクセスログに含まれません。
6574401	Proxy Server でサポートされるブラウザの範囲が広がり、Internet Explorer (IE) v7 も含まれています。
6576044	『Proxy Server 4.0.6 Configuration File Reference』が更新されて、新しく追加された SOCKS 構成パラメータ SOCKS5_UDPASSOC_TIMEOUT について説明されています。
6576050	Proxy Server 4.0.6 オンラインヘルプが更新されて、HTTP クライアントの再試行機能の効果について説明されています。
6576065	スタイルガイドラインと Proxy Server の製品ユーザーインタフェースに一致するように、Proxy Server 4.0.6 オンラインヘルプが更新されています。
6577128	Sun Crypto Accelerator 6000 のために拡張される Proxy Server のサポート。

表 B-12 (続き) Proxy Server 4.0.6 で修正された問題

問題 ID	概要
6578024	LDAP 接続障害エラー。
6578560	アップグレード後に Proxy Server が表示する、管理サーバーへのアクセス方法を示したメッセージで、サーバー名とポート名が null (http://null:null) と示されません。
6579049	プロキシサーバーが間違ったパーティションを作成するため、起動時にエラーが発生します。
6579781	virt-map 指令で host-regex 引数が空の場合、Proxy Server が失敗します。
6581350	Proxy Server のインストールにデバッグ JDK バイナリが含まれています。
6584989	ブラウザが IE 7 の場合、「Version」ウィンドウで「閉じる」ボタンの中央にラベルが配置されません。
6594191	ローカライズされたオンラインヘルプは Proxy Server 4.0.6 に統合する必要があります。

B.13 4.0.5 で修正された問題

表 B-13 では、Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.5 で解決された問題を一覧表示します。

表 B-13 Proxy Server 4.0.5 で修正された問題

問題 ID	概要
6240773	待機ソケットを削除してサーバーを再起動しても、ポートがクリアされません。
6390867	Windows で、キャッシュされた csv ファイルの情報を表示しようとすると、cv.exe が失敗します。
6391439	管理インタフェースで DNS サブドメインの有効化オプションをクリアしても、obj.conf ファイルから DNS fn="dns-config" local-domain-levels="0" という行が削除されません。
6413536	webservd はデフォルトユーザーとして使用する必要があり、nobody には設定できません。
6463455	『Proxy Server 4.0.5 リリースノート』が更新されて、Proxy Server をサポートする Sun Crypto Accelerator のバージョンが説明されています。
6466910	『Proxy Server 4.0.5 管理ガイド』が更新されて、Proxy Server を操作するための Sun Crypto Accelerator の設定手順について説明されています。
6482102	Proxy Server を経由して接続したときに、特定の FTP サイトから Web ブラウザを通してファイルを取得することができません。
6500200	管理インタフェースに有効期限の切れたページが表示されません。
6500224	SOCKS ルーティングを経由する FTP が機能しません。
6500232	Proxy Server 4.0.5 のオンラインヘルプが更新されて、「Monitoring Server Status」ページに関するヘルプページにキャッシュについての説明が追加されています。
6500547	SOCKS ルーティングを経由する FTP によってファイルが損傷することがあります。
6506550	サブシステムをキャッシュするときに null ポインタアクセスが発生すると、プロキシサーバーが失敗することがあります。
6513846	『Proxy Server 4.0.5 リリースノート』が更新されて、Proxy Server が HTTPS のキャッシュをサポートしていないことが説明されています。
6517969	obj.conf と ACL の処理が期待どおりに動作しません。

表 B-13 (続き) Proxy Server 4.0.5 で修正された問題

問題 ID	概要
6520629	管理インタフェースの「Configure Virtual Multihosting」ページで、host-regex にユーザーポート番号が許可されません。
6521610	管理インタフェースの「Set Cache Specifics」ページを使用してキャッシュを有効化した場合、obj.conf ファイル内の "cache-disable" 行が削除されません。
6523139	Proxy Server のデバッグビルドでは、ログされない情報があります (切断など)。
6524253	Proxy Server のウォッチドッグのコアダンプ。
6524898	キャッシュ構造が cbuild.exe によって作成されている場合、インスタンスの起動後にキャッシュ内の .sects ファイルが空になります。
6525294	ログファイル内の構文に問題がある場合、flexanlg ユーティリティーはコアダンプします。
6526297	Proxy Server の管理インタフェースの「Manage Section」ページには、すべてのパーティションのすべてのセクションが表示され、パーティション間でセクションを移動する方法が示されます。しかし、この機能は正しく動作しません。
6526354	新しいパーティションを追加するとセクションが 1 つ作成されます。
6526964	SOCKS v5 サーバーによってセッションが予期せず切断されます。
6526990	Proxy Server 4.0.4 オンラインヘルプのローカライズ版のリンクが正しく機能していません。
6527840	管理インタフェースを使用して SOCKS サーバーをシャットダウンすると、起動時に表示されるのとは異なるメッセージが表示されるようになります。
6528069	Proxy Server で使用可能なキャッシュパーティションの最大数は 32 ですが、Proxy Server 4.0.3 では 32 個のパーティションを作成できません。
6529305	仮想マルチホストを使用するときに、ホストを大文字で指定すると機能しません。
6534208	4.0.5 リリースでは、バージョンの文字列を変更する必要があります。
6537410	Proxy Server は、Proxy Server が接続を閉じるまで、新しい HTTP 要求の受信を待機することがあります。
6537736	Proxy Server には、ドメインバッファオーバーフローによる脆弱性があります。この問題は、sockd デーモン内でドメイン名のアドレスタイプを処理する場合に明確に現れます。
6537745	Proxy Server には、ドメインバッファオーバーフローによる脆弱性があります。この問題は、sockd デーモン内の s5auth_userpass() 関数で明確に現れます。
6538060	管理サーバーの startsvr および stopsvr スクリプトが、proxy-admserv405 ではなく proxy-admserv404 を参照します。
6538173	HP-UX では、プロキシインスタンスに待機ソケットを追加しようとすると、管理サーバーにエラーページが表示されます。
6539318	Linux では、ユーティリティー cbuild が機能しません。
6539689	Linux では、グループ ID 80 がすでに存在していると Proxy Server のインストールが動作せず、インストールが失敗しても正しいインストールログが作成されません。
6544263	Proxy Server 4.0.5 オンラインヘルプの英語版が変更されたら、ローカライズ版も更新する必要があります。
6545267	『Proxy Server 4.0.5 Configuration File Reference』のログパラメータに関する情報が更新されています。

B.14 4.0.4 で修正された問題

表 B-14 では、Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.4 で解決された問題を一覧表示します。

表 B-14 Proxy Server 4.0.4 で修正された問題

問題 ID	概要
4973509	Cache-Control 指令が private=list あるいは no-cache=list の場合、複数の値に対してはサポートされていません。
4973523	HEAD 要求はキャッシュされません。
4973652	Proxy Server は、65536 バイトの長さの URL をサポートしません。
4999184	プロキシサーバーが Web サーバーをポイントする逆プロキシモードで構成されている場合、Web サーバーがダウンした場合には表示されるエラーメッセージに Proxy Server を利用していることが表示されるべきではありません。
5093104	Proxy Server の管理インタフェースでは、クライアント IP 転送で HTTP ヘッダーのあとに空白を入れることができずしてしまいます。
6208895	Proxy Server を経由して Microsoft IIS FTP サーバーに送信される FTP 要求が機能しません。
6214329	「HTTP4352: zlib internal error」がエラーログとしてエラーに記録されています。
6233086	マルチバイトのユーザー名でクライアント資格を送信する場合、有効性チェックを追加する必要があります。
6243358	削除されたユーザーがグループの一部として表示され続けます。
6245972	「Administer Access Control」ページで設定したユーザー権限が機能しません。
6246562	クラスタを使って別のロケールおよびプラットフォームにインストールされた一連のサーバーの停止に失敗します。
6253844	「zh-cn」ロケールでは Proxy Server のオンラインヘルプが英語で表示されます。
6255761	インストーラのヘルプページにコンテンツがありません。
6255838	SOCKS サーバーを停止せずに Proxy Server インスタンスを削除し、新しいインスタンスを作成すると、ポートが使用中であるため、新しいインスタンスで SOCKS サーバーを起動できません。
6256442	インストーラは、英語で「Password should be at least 8 characters」というエラーメッセージを表示します。
6266497	管理インタフェースは、重複したポート番号の使用を「Add Server」ページで許可してしまいます。
6268356	Windows で、system32 ディレクトリに libnspr4.dll が存在しない場合に SNMP サービスが動作しません。
6274424	Windows で状態ファイルの defaultInstallDirectory の値が間違っています。インストーラでのデフォルトインストールディレクトリは c:\%sun%\ProxyServer40 ですが、setup --savestate コマンドを使用して生成された状態ファイルに c:\%sun%\ProxyServer40 がデフォルトインストールディレクトリとして存在しません。状態ファイルはデフォルトインストールディレクトリとして UNIX テンプレート値を表示します。
6304981	Linux システムに ksh がインストールされていない場合、Proxy Server のインストールが失敗します。
6310283	Proxy Server の管理インタフェースでは、タブに間違ったページコンテンツが表示されることがあります。
6312087	ローカライズされたオンラインヘルプでは、関連した内容のヘルプを表示できません。

表 B-14 (続き) Proxy Server 4.0.4 で修正された問題

問題 ID	概要
6313904	管理サーバーは、別の IP アドレスで使用されているポート番号での待機ソケットの設定を許可しません。
6321797	『Proxy Server 4.0.3 Configuration File Reference』は、flex-init パラメータ no-format-str.access の情報により更新されています。
6331035	負荷分散機能は、正規表現でのみ機能します。
6333355	ACL キャッシュが有効になっている場合、ACL のユーザーおよびグループの定義は LDAP エントリの場合と正確に一致した ACL キャッシュをする必要があります。
6337657	分散管理の構成を試行すると、Proxy Server は内部サーバーエラーメッセージを表示します。
6369549	Java ES 5 にプロキシのパッチをインストールすると、Linux にエラーが発生します。
6371618	圧縮レベルを NONE に変更できません。マニュアルに、圧縮レベルとして何を選択するか記述する必要があります。
6380736	「Set GC Preferences」 ページで「Explicit GC」を選択した場合、「Schedule GC」 ページが表示されません。
6382393	Proxy Server は FTP のアップロードを実行できません。
6382692	移行中、3.6 obj.conf 内の書式文字列 Req->vars.pauth-user は Req->vars.auth-user に変更されるべきです。
6383320	コンテンツファイル名に空白文字または日本語の文字が含まれる場合、キャッシュファイルを削除できません。
6383435	sockd プロセスは、Linux で大量のメモリーを使用します。
6387166	Proxy Server の管理インタフェースの「View Server Settings」 ページで、MaxProcs 値が表示されません。
6388818	SOCKS サーバーでは、ディレクトリサービス ID をデフォルトにする必要があります。
6390034	libnspr4.dll は、system32 ディレクトリではなく、<install-dir>%bin%proxy%bin ディレクトリで最初に参照されるべきです。
6390054	管理インタフェースのバージョンウィンドウで著作権の年を変更する必要があります。
6399395	「Select Directory Service」 ページがディレクトリサービスの選択肢を反映しません。
6402589	http-client-config 機能は、より一層具体的なオブジェクトの設定を適用しません。
6411505	管理インタフェースの「Redirect URL」 ページが予想通りに機能しません。
6412129	Proxy Server 3.6 インスタンスに fn="block-ip" という設定が見つからない場合、Proxy Server 4.0 移行ツールがその行を追加する必要があります。
6414355	Linux でコマンド batchupdate を無効な bu.conf ファイルで実行すると、セグメンテーションのエラーを引き起こします。
6415125	コンパイラを Sun Studio 8 から Sun Studio 10 に変更します。
6416272	サーバーユーザーの変更後、Proxy Server が正しく起動しません。
6417755	「Previous」、「Main」、「Next」などのリンクが Proxy Server のオンラインヘルプでローカライズされていません。
6419925	Proxy Server で、さらに多くのキャッシュ関連の統計情報が必要です。
6423487	オンラインヘルプに DNS 統計を有効にする方法についての詳細が追加されました。
6425025	url-prefix パラメータが明示的に指定されていないかぎり、指令 host-map が機能しません。

表 B-14 (続き) Proxy Server 4.0.4 で修正された問題

問題 ID	概要
6425026	Proxy Server は Accept-Encoding ヘッダーに基づいてキャッシュオブジェクトを識別する必要があります。
6425038	Proxy Server は、cache-local の値を 1 に設定して逆プロキシとして動作している間は query-maxlen を考慮しません。
6425601	特定の状況で、自動ガベージコレクションが機能しません。
6425752	キャッシュからの 304 応答でヘッダーが重複しています。
6426543	キャッシュの反復子の処理でメモリーリークが発生しています。
6427137	Proxy Server は応答でマイクロバージョン番号を送信します。
6433285	プロキシのコアエラーメッセージの一部がローカライズされません。
6433776	コマンド cbuild の実行時、.sects ファイルが作成されません。
6433807	Windows で、Proxy Server と管理サーバーがスタートアップメッセージに誤ったバージョン番号を表示します。
6434137	Proxy Server がタイムアウト時に誤ったエラーメッセージを表示します。
6435491	『Proxy Server 4.0.4 Configuration File Reference』の第 5 章のサービスの派生についての節で、type パラメータへの参照が削除されています。
6441601	『Proxy Server 4.0.4 管理ガイド』の第 5 章に、証明書発行局のルート鍵または自己署名アプリケーションをロードする必要性を説明するために注記が追加されています。
6442054	『Proxy Server 4.0.4 管理ガイド』の第 5 章「SSL を使用した LDAP との通信」節で、LDAP ルート CA 証明書の Proxy Server へのインポートについての情報が更新されています。
6442071	『Proxy Server 4.0.4 管理ガイド』の第 5 章に、管理サーバーへのアクセスのセキュリティ保護について説明する新しい節が追加されています。
6442090	『Proxy Server 4.0.4 Installation and Migration Guide』で、次のことを明らかにするために説明が追加されています。 - Proxy Server は root 以外のユーザーとしてインストールできます - Proxy Server は root 以外のユーザーとして実行できます
6442091	キャッシュは、期間に必要な遅延を追加して current_age の値を正しく計算できる必要があります。
6442641	Proxy Server 4.0 が、コンテンツ長を指定する CONNECT 要求で正常に動作しません。
6443160	HP-UX では、zlib ライブラリが Java ES 5 向けの製品とともにパッケージされる必要があります。
6443720	アクセスログファイルにログ情報が含まれていない場合は、Log Analyzer に問題がある可能性があります。
6443731	Windows 2000 SP4 で Java ES 環境での設定後、システムを再起動する必要があります。
6444332	HP-UX で batchupdate を無効な bu.conf で実行すると、セグメント例外を引き起こします。
6444363	HP-UX で、root 以外のユーザーではプロキシインスタンスは作成されません。
6444942	存在しないインスタンス上でコマンド cachegc を実行すると失敗します。
6445440	エラーメッセージのローカライズが不完全です。
6446098	HP-UX で「View URL Database」ページに内部エラーがあります。
6446349	HP-UX での負荷テストの結果、mmap() 障害が発生しました。

表 B-14 (続き) Proxy Server 4.0.4 で修正された問題

問題 ID	概要
6446933	『Proxy Server 4.0.4 Configuration File Reference』で、docs ディレクトリへの参照が削除されています。
6447423	Proxy Server 4.0 で、デーモンの構造が正しく開放されないためにメモリーリークが発生しています。
6447427	Proxy Server 4.0 で、共通クライアントのチャンネルの取得中にメモリーリークが発生しています。
6447476	Proxy Server 管理インタフェースで、キャッシュパーティションのサイズが常に 0 と表示されます。
6450886	socks5.conf パラメータ SOCKS5_TIMEOUT の新しい最大値である 360 分が『Proxy Server 4.0.4 Configuration File Reference』に記載されています。
6454032	Address 指令が設定されるたびに、Proxy Server が同じポートにバインドされます。
6455411	Windows では、Proxy Server は Java ES 4 と Java ES 5 の共存をサポートする必要があります。
6459839	キャッシュを使用不可にして Proxy Server 3.6 を 4.0.3 に移行すると、使用できないサーバーインスタンスが発生します。
6461889	変換されたデータが HTML フィルタによって破壊されました。
6461896	HTML タグフィルタがソースドキュメントを変換した際に、コンテンツ長を更新していません。
6461991	proxyResources.properties ファイルの英語ソースに文字の間違いがあります。
6462366	HP-UX で SOCKS ネームサーバーの設定後、Proxy Server の再起動が失敗しました。
6463404	あるユーザーがすべてのプログラムへのアクセスを許可された場合、分散管理が正しく機能しません。
6463927	テンプレートファイル WSPProp.properties に Windows プラットフォームのエントリが含まれます。
6465608	Windows で Proxy Server のインストール時に、管理サーバー用に「Stop Admin Server」のショートカットが作成されません。
6465984	ファイル proxyResources.properties に重複したキーが含まれています。
6466452	Proxy Server が、インストーラレジストリキーを Entsys から Entsys5 に更新する必要があります。
6467644	Windows Server 2003 Enterprise プラットフォームで、reconfig.bat の実行が失敗しました。
6470294	Windows で、キャッシュのセクションを減らすために cbuild.exe を実行しても、セクションが正しく削除されません。
6473677	Java ES 4 システムでパッチ 120981-08/120982-08 を適用後、Proxy Server が起動しません。
6478407	『Proxy Server 4.0.4 管理ガイド』の第 7 章「SSL が有効なサーバーの起動」節で、起動スクリプトの修正を促す提案が削除されています。
6480637	Proxy Server が 1 時間おきに失敗します。
6484781	分散管理を有効にしたあと、認証されていないユーザーまで管理サーバーにログイン可能になります。
6485988	『Proxy Server 4.0.4 Configuration File Reference』の第 5 章の送信エラーについての節が更新されて、Web Server の HTTP レスポンスには送信エラーは影響しないという注記が追加されています。

表 B-14 (続き) Proxy Server 4.0.4 で修正された問題

問題 ID	概要
6505480	HP-UX でのプロキシサーバーのスタンドアロンインストールで、HP-UX 11.11 でのインストールが失敗します。
6519072	Proxy Server 4.0.4 のスタンドアロンインストール用のインストーラには、2007 年の U.S. DST の変更に対応する JRE バージョンが組み込まれている必要があります。対応する JRE バージョンは、Solaris、Windows、および Linux の場合は 1.4.2_13 です。HP-UX の場合は JRE バージョン 1.4.2.12 です。
6519113	『Proxy Server 4.0.4 Configuration File Reference』の第 5 章のエラーについての節が更新されて、エラー応答コード 404 および 500 への参照が削除されています。
6511549	HP-UX での Proxy Server のスタンドアロンインストールで、CLI モードでインストールが失敗します。
6520577	『Proxy Server 4.0.4 管理ガイド』の仮想マルチホスティングについての節が更新されて、まずリバースマッピングを指定してからその他のマッピングを指定すべきであるという注記が追加されています。

B.15 4.0.3 で修正された問題

表 B-15 では、Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.3 で解決された問題を一覧表示します。

表 B-15 Proxy Server 4.0.3 で修正された問題

問題 ID	概要
6191615	起動時に特定の正規表現を URL フィルタとして使用すると、Proxy Server が失敗します。
6213012	Windows 上の ROTATELOGS イベントは、指定された時間に起動されません。
6213726	転送時間レポートが、常に「0.00 sec/req」という値を報告します。
6215659	転送時間配布レポートが、常に「< 1 sec [100.0%]」という値を示します。
6239292	アクセスログファイルにログ情報がない場合の、Extended2 形式の Log Analyzer エラー。
6242032	『Proxy Server 4.0.2 管理ガイド』の第 7 章の「システムの詳細設定」節での Parent Array の説明が間違っています。正しい説明は、「親配列とは、プロキシまたはプロキシ配列メンバーがルーティングに使用するプロキシ配列のことです」。
6264079	管理インタフェースがディレクトリサービスのデフォルト値である default を上書きします。
6275141	Proxy Server 4.0.2 でファイルキャッシュ機能は GUI に表示され、「Server Manager」>「Caching」>「Configure File Cache」ページに説明がありますが、この機能は実装されていません。
6270693	Filter 指令が要求ごとに 2 回呼び出されることがあります。
6285076	両方のメソッドが構成されている場合、SOCKS サーバーがユーザー認証に LDAP およびパスワードファイルの両方を処理できません。
6285183	Windows で PR_MemUnmap() 呼び出しによってエラーが発生します。
6285791	Java ES 4 の SOCKS サーバーの start コマンド行の問題はこのリリースで修正されましたが、Java ES 4 インストールで作成された既存のインスタンスでは、最新の 4.0.3 パッチにアップグレードしたあとも問題が残ります。アップグレード後に作成された新しいインスタンスにはこの問題はありません。この問題は、Proxy Server のスタンドアロンインストールでは発生しません。

表 B-15 (続き) Proxy Server 4.0.3 で修正された問題

問題 ID	概要
6289188	root 以外のユーザーとして Proxy Server 4.0 をインストールし、root ユーザーとして管理サーバーをインストールした場合、管理ユーザーインターフェースでキャッシュ設定を変更すると、キャッシュファイルおよびキャッシュディレクトリのアクセス権が root 以外から root に変更されます。
6292729	「Client IP Addressing Forwarding」のデフォルト設定は「ブロック」にします。
6294282	Proxy Server 4.0 の管理インターフェースで、パターンにバックスラッシュ「¥」を含むリソースの ACL を正しく設定できません。
6294563	アクセスログ形式のデフォルト設定は Web Server とは異なります。
6295286	『Proxy Server 4.0.2 管理ガイド』の第 14 章の「逆プロキシの設定」節では、手順 5 で、「/」マッピングは管理 GUI が自動的に表示する「Map Source Prefix」テキストボックスの内容をユーザーが変更しない場合にのみ追加されることに注意を促す必要があります。
6296870	管理インターフェースにキャッシュセクションテーブルの詳細が正しく表示されません。
6299913	Proxy Server 3.6 から 4.0 への移行中に ConnAddress 指令が Address に変わりません。
6300480	Proxy Server 3.6 から 4.0 への移行中に「キャッシュ」タブの設定が正常に移行されません。
6300615	ローカライズされたコアメッセージにメタタグがありません。
6301140	キャッシュが無効になっている Proxy Server のインスタンスの移行時に、移行によって無効なキャッシュエントリが作成されます。
6303619	default 以外の名前で登録されているデータベースで ACL が正しく機能しません。
6304354	「Do Not Log Client Accesses From」オプションが反映されない構成が作成されます。
6311548	Proxy Server 4.0 はアクセスログに auth-user の代わりに pauth-user を使用しません。
6312044	Proxy Server 4.0 の管理インターフェースでは、「Monitor Current Activity」ページの「Server Status」タブは「DNS」、「Keep-Alive」、「Cache Statistics」では更新されません。
6313910	Windows では、ヘッダー名の書き換え機能に失敗し、「Internal server error occurred」というメッセージが表示されます。
6313959	『Proxy Server 4.0.2 管理ガイド』の第 12 章の「ファイルキャッシュを設定するには」節の手順 1 の説明が間違っています。正しい説明は、「Server Manager から、「キャッシュ」タブをクリックします」です。
6313960	『Proxy Server 4.0.2 管理ガイド』の第 12 章の「バッチ更新を作成するには」節には、「タイミングセクション」を参照する手順 10 があります。この手順は誤っています。「Set Cache Batch Updates」ページには「タイミングセクション」がありません。
6316289	『Proxy Server 4.0.2 管理ガイド』の第 12 章の「キャッシュのディレクトリ構造の構築」節には、図 12-2 ではなく、図 12-1 を参照する例が掲載されています。
6325537	管理インターフェースで RqThrottle 値を変更できません。
6325616	定期的な (明示的な) ガベージコレクションでキャッシュがクリアされません。
6328678	管理インターフェースから、ICP timeout 値を 400 ミリ秒未満に設定できません。
6334854	Proxy Server のマニュアルと sun-web-proxy-server_4_0.dtd の不一致。
6337102	Proxy Server が DNS fn = "dns-config" local-domain-levels = "8" で失敗します

表 B-15 (続き) Proxy Server 4.0.3 で修正された問題

問題 ID	概要
6338719	Proxy Server のパッチアップグレードが Linux AS 3.0 上で異なる場所にインストールされます。
6338875	Proxy Server 4.0.1 FTP クライアントがシンボリックリンクを正しく処理できません。
6350957	『Proxy Server 4.0.2 管理ガイド』の第 5 章の「待機ソケットのセキュリティーの有効化」節では、セキュリティーは逆プロキシモードでのみ有効にすることができ、順プロキシモードでは有効にできないことが述べられていません。 また、第 8 章の「ユーザーとグループの指定」節では、セキュリティーは逆プロキシモードでのみ有効にすることができ、順プロキシモードでは有効にできないことが述べられていません。
6365433	Proxy Server の管理インタフェースで自動開始オプションが選択されている場合、Proxy Server インスタンスを作成できません。
6367375	親プロキシがある場合、CONNECT とのマッピングが機能しません。
6369095	Proxy Server 4.0 でのメモリーリーク。
6371084	Web サーバーの IP アドレスを使用している場合、連鎖プロキシ環境で SSL サイトの要求が機能しません。
6371618	圧縮レベルを NONE に変更できません。
6371731	"connect://.*:563" がデフォルトリソースにありません。
6371793	pkginfo は SUNWproxy-110n の \$distro を表示します。
6373101	管理サーバーが ssl-client-config に対して無効なパラメータを作成します。
6373622	cache-disable SAF が説明されていません。
6374279	WebDAV OPTIONS メソッドへの応答が RFC2518 に準拠していません。
6376065	max-uncheck 関数が予想通りに機能しません。
6376153	Proxy Server 4.0.2 は、ftp/gopher プロトコルのキャッシュを更新しません。
6381373	キャッシュがすでに温まっている場合、再起動後の実行中に Proxy Server が失敗します。
6381419	cache-last-checked ヘッダーの値が無効です。
6381424	警告ヘッダーはホストを含んでいるべきです。エージェントのポート値がこのヘッダーを追加します。
6382729	Proxy Server は utf-8 エンコードパラメータを受け入れません。
6383301	Proxy Server 4.0 はチャンネルプールに問題があります。
6383456	Proxy Server 4.0.2 は、Linux で高い CPU 使用率を示します。
6384616	Proxy Server 4.0.3 のオンラインヘルプに文字の間違いがあります。
6385902	アクセスログ設定の設定の形式はデフォルト形式と一致しません。
6387772	バグ (6325537、6303619) が修正されたため、オンラインヘルプの変更をローカライズする必要があります。
6387901	『Proxy Server 4.0.2 管理ガイド』の第 11 章の「Proxy Server の連鎖」節は明確ではありません。
6388156	キャッシュファイルのヘッダーが壊れる可能性があります。
6390237	応答にコンテンツの 2 倍の長さのヘッダーが含まれている場合、Proxy Server は間違ったコンテンツの長さを渡します。
6392875	regex-map が接続のために機能しません。

表 B-15 (続き) Proxy Server 4.0.3 で修正された問題

問題 ID	概要
6393573	Proxy Server 4.0.2 は DNS <code>fn="dns-config" local-domain-levels="1"</code> のとき失敗します
6394287	SOCKS プロセスが頻繁にポーリングしすぎるため、socks プロセスが CPU の約 50% を使用しています。
6395473	「遅い」クライアントを処理しているときの、Proxy Server 4.0 での高い CPU 使用率の問題。
6395889	Proxy Server 4.0.2 を使用している場合に、Windows Server Update Service (WSUS) が機能しません。
6400981	<code>socks5.conf</code> で設定されている <code>SOCKS5_TIMEOUT</code> 値が無視されます。
6402698	FTP クライアントでの高度な CPU の使用。
6418214	Proxy Server 4.0 のガベージコレクション機能に関する問題。
6424527	<code>cache-control</code> ヘッダーのエントリが空のリクエストでは、処理中に Proxy Server が失敗します。

B.16 4.0.2 で修正された問題

表 B-16 では、Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.2 で解決された問題を一覧表示します。

表 B-16 Proxy Server 4.0.2 で修正された問題

問題 ID	概要
5097664	<code>ssl-tunnel-timeout</code> パラメータが Windows で機能しません。
6225025	<code>ftp-listing-width</code> パラメータが正しく機能しません。
6251805	アーカイブのログを変更すると失敗します。
6262277	ICP のタイムアウトの最小値を 400 から 50 に変更します。
6292690	Proxy Server 4 で、IE 6.0 を使用して管理インタフェースにアクセスしているときに、「Manage Sections」 > 「Partition」を使用して元のパーティションを選択できません。
6292786	Proxy Server で、転送時間やその他の時間がアクセスログに書き込まれません。
6308714	<code>umask</code> が 022 に設定されていない場合は、Proxy Server の起動に失敗します。
6310909	Proxy Server 4.0.1 ポイント製品で、製品名のバージョン文字列がフランス語ロケールで 2005Q3 から 2005T3 に誤って訳されています。
6310910	Proxy Server 4.0.1 ポイント製品で、フランス語ロケールのインストーラメッセージ中のアポストロフィーが多数欠落しています。
6310944	Proxy Server 4.0.1 ポイント製品で、CLI インストーラがライセンスを表示しません。
6310961	Proxy Server 4.0.1 ポイント製品で、スペイン語ロケールのライセンスインストーラ画面の「Yes」がローカライズされていません。
6312723	Proxy Server 4.0 を使用しているときに、IP アドレスで SSL サイトにアクセスできません。
6313981	Proxy Server 4.0 で、管理インタフェースを使用して新しい逆マッピングを作成したあとで「Rewrite Content Location」および「Rewrite Headername」の値を変更できません。
6315817	複数の同時 CONNECT (SSL トンネリング) 要求によって、スレッドが不足します。

表 B-16 (続き) Proxy Server 4.0.2 で修正された問題

問題 ID	概要
6330348	負荷実行時に Solaris 10 の Proxy Server プロセスによってメモリーが大量に使用されます。
6333995	CONNECT の負荷テストの実行時にメモリーリークが発生します。
6335919	FTP サーバーが閉じていると、Proxy Server の FTP クライアントの接続が閉じません。
6335922	Proxy Server の FTP クライアントが USER 要求を FTP サーバーに送信しません。
6336550	Proxy Server 4.0 インストールを含むディレクトリに Proxy Server 4.0.1 をインストールしようとするエラーが発生します。

B.17 4.0.1 で修正された問題

表 B-17 では、Oracle iPlanet Web Proxy Server 4.0.1 で解決された問題を一覧表示します。

表 B-17 Proxy Server 4.0.1 で修正された問題

問題 ID	概要
2126143	同じ正規表現がアクセス制御とルーティングでは機能しますが、URL フィルタでは機能しません。
2126380	Proxy Server の ICP プロセスのメモリーリーク。
6231283	Linux Red Hat Advanced Server 3.0 上の管理サーバーが起動に失敗します。
6237346	flexanlg ユーティリティーが、Extended2 ログファイル形式でのログ分析レポートの生成時に、コアダンプを出力します。
6240767	管理サーバーおよび Proxy Server インスタンスの追加 / 編集待機ソケットが、使用されているポートを確認しません。
6242627	ローカライズされたコアメッセージが表示されません。
6243369	SOCKS に関連するページでマルチバイト文字のエントリは避ける必要があります。
6244103	Linux Advanced Server 3.0 韓国語ロケールで Proxy Server インスタンスの「Set Connectivity Mode」ページにアクセスすると、内部サーバーエラーが表示されます。
6245408	管理者ユーザーとプロキシインスタンスユーザーが異なる場合に、新しく追加したパーティションにアクセスすると、内部エラーが表示されます。
6249166	Proxy Server へのアクセス時に、URL のホスト名が localhost に置換されると、「Cluster」タブの「Control Cluster」、「Modify Server」、「Remove Server」ページの表示が一致しません。
6253014	Linux Red Hat Advanced Server 3.0 上の obj.conf ファイルに、9 つを超える NameTrans ディレクティブが存在すると、init-proxy SAF で障害が発生します。
6254508	セグメンテーションのエラーによって、バッチの更新コマンドが終了します。
6255214	マルチバイト文字から構成されるコンテンツ URL 書き換えページのエントリを編集または削除できません。
6255216	socks5.conf 内の特定の LDAP エントリによって、socksd の障害が発生します。
6259314	ローカライズされた一部のオンラインヘルプページが英語のオンラインヘルプページと同期化されていません。
6261440	インストールディレクトリに、重複した英語オンラインヘルプが存在します。
6263694	「Add and Replace Compromised Key List」ページおよび「Add and Replace Certificate Revocation List」ページでオンラインヘルプが利用できません。

表 B-17 (続き) Proxy Server 4.0.1 で修正された問題

問題 ID	概要
6263721	Server Manager の「Add/Replace Cert」ページについて誤ったヘルプページが表示されます。
6274186	サーバーインスタンスを削除できません。
6276398	基本ワークスペースからローカライズされたオンラインヘルプを削除します。
6285078	SOCKS 要求の認証の失敗のエントリがログファイルに記録されません。
6285779	serverID にスペースが含まれる場合に、Proxy Server インスタンスが起動できません。
6285788	認証を使用している場合に、SOCKS サーバーが失敗します。
6289242	Proxy Server 4.0 での HTTP スマグリング。
6293449	Proxy Server 4.0 が CONNECT メソッドでただちに接続を閉じません。
6295622	関数 ConnAddress は、Proxy Server 4.0 で実現されていません (説明もありません)。
6296169	ほかのロケールでインストールされた Proxy Server 4.0 のヘッダー Cache-last-checked が壊れています。
6296225	DNS キャッシュが有効にされている場合に、Proxy Server インスタンスが断続的に失敗することがあります。
6301786	Solaris 9 x86、Linux AS 3.0 で、ローカライズされたコアメッセージが表示されません。
6311463	プロキシプロセスで、時間と共にオープンファイル記述子の数が増加し続け、プロキシのファイル記述子が不足し、接続がドロップします。

